

41924

教科書文庫

4
820
41-1930
20000 40101

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19

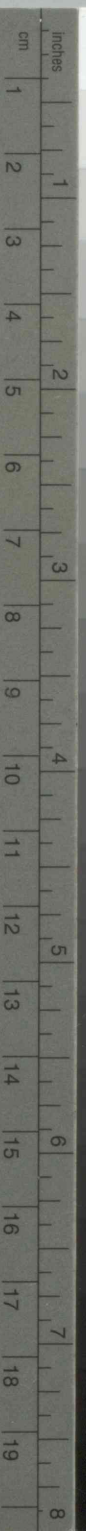


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



3759
Ki27
資料室

漢文階梯

全



濟定檢省部文

用科文漢校學中 日五十月七年五和昭

資 料 室

375.9
K25

漢

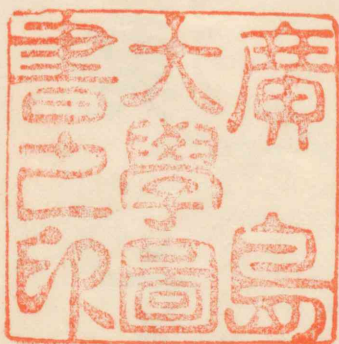
文

階

梯

清川初一著





緒言

一本書は漢文の一般的智識を授くるを目的とし、中等學校低學年の副教科用書として編述したるものなり。

一文法に偏せず、雜纂に流れず、而も容易に漢文の語學的智識を系統的に收得せしむるやう考案せり。

一前篇に於ては、三つの平易なる國文の組立を基礎として漢文の組立を説き、中篇に於ては前篇に於て得たる智識の總括的練習を爲しつ、漢文特有の句法に注意せしめ、後篇に於ては中篇に於ける句法上の智識を纏め、尙足らざるは之を補ひて送假名練習に便なるやう整理したり。

一組織統一に重きを置く時は、勢教授が無味乾燥に陥り易きを以て、一

事項を授くる毎に練習題を多くするは勿論、練習の方法にも變化を求め、且古今名家の文章を併せ課して、既修の智識を試練しつつ、漢文學習に興味を感じしむるやう努めて教材の選擇取扱に注意せり。

昭和五年三月

著者識す

漢文階梯目次

前編 漢文の組立

一文	一
一 何が、どうする	三
練習	七
二 何が、どんなである	八
練習	一〇
三 何が、なんである	二
練習	三
四 何が、なんである	四
練習	七
五 何が、なんである	三
練習	三
六 修飾した語のある場合	三
練習	三

目次

焉・矣	三
練習	三
七 何が、どうする、何を	六
返點「レ」「二」	六
訓點・白文	六
練習	六
八 何が、どうする、何に	三
敬語・曰	三
練習	三
九 何が、どうする、何と	三
乎・耳	三
練習	三
一〇 「於・于・乎」	三
練習	三
二 返るべき特別の字	四

一 有・無・莫・勿・不・非 習 九〇

二 可・被(見)・所・所以・能・欲 習 九一

三 自・從・與・爲・每・雖 習 九二

四 如・易・難・多・少 習 九三

則 習 九四

練 習 九五

邪 習 九六

三 「レ點」と「一二點」との複用 練 習 九七

一字再讀 練 習 九八

未 練 習 九九

使令・練 習 一〇〇

當 練 習 一〇一

將(且) 練 習 一〇二

宜 練 習 一〇三

須 練 習 九四

猶 練 習 九五

盍 練 習 九六

四 返點「上中下」「甲乙丙」 一段、奇快 謝 肇 九七

靜心以書 中 村 和 九八

孟母斷機 蒙 求 九九

以忘初爲誠 貝 原 篤 信 一〇〇

豐太閤豪語 賴 襄 一〇一

五 何が、どうする何を、何に 練 習 一〇二

孝 練 習 一〇三

螢雪之苦 小 蒙 求 一〇四

陶侃運甓 賴 襄 一〇五

鎧袖一觸 賴 襄 一〇六

六 何が、どうする何を、何と 練 習 一〇七

豐公天 大 槻 清 崇 一〇八

謂天下何 鹽 谷 世 弘 一〇九

眞知我者 松 村 操 一一〇

二七 反 語

何・何以・哉 八三

豈・安 八四

何・待・來・年 八五

仁厚愛物 八六

而の用法 八七

正行大悟 八八

何以對天下 八九

仁德天皇 九〇

幾萬愛兒 九一

爾靈山 九二

中篇 總練習及び句法 九三

一 伊勢神宮 句法「是爲」「葺以」練習 九四

二 敬 神 會 澤 安 九五

三 清麿忠節 句法「未之有也」練習 九六

使 役 九六

四 菅公忠愛 句法「未嘗」「莫不」「」練習 九七

受 身 賴 襄 九八

正成獻策 賴 襄 九九

句法「何必抗議」「命」「」練習 一〇〇

六 兒島高德 句法「蓋何不」「遣」「間道」「」練習 一〇一

七 孝 句法「敢不」「乎」練習 一〇二

八 父母之遺體 句法「不必」「云」「莫適而非」「」練習 一〇三

伯俞悲泣 「莫大」「」練習 一〇四

九 泰時友愛 句法「何也」「是以」練習 一〇五

句法「何也」「奚擇」「何爲」練習 一〇六

二 棄欲思義 句法「隨」「隨」「何不和之有」練習 一〇七

大槻清崇 一〇七

二 隆景押字 練習 一〇八
 句法「何一爲」練習 頼 襄 一〇九

三 昔爲主君、今爲兇徒 頼 襄 一〇九
 句法「孰與」 練習 二

四 擇交 廣瀬 建 二二
 「可一以」 練習 二二

五 白石薦朋 原 善 二二
 句法「何國之擇」「諸一之於」 練習 二二

六 桂林莊雜詠示諸生 廣瀬 建 二二
 練習 二二

七 學校 貝原篤信 二四
 句法「不可一日而無」 練習 二四

八 講學勤業 貝原篤信 二四
 句法「難一再」「不重」 練習 二五
 「豈可一乎」 練習 二五

一九 勸學之詩 陶 潛 二六
 (イ) 勸學之歌 陶 潛 二六
 (ロ) 題壁 釋 月 性 二六
 (ハ) 光陰不可輕 朱 熹 二六
 日記故事 二七

二〇 雪案螢窓 日記故事 二七
 句法「不常」 練習 二七

二 忍痛受業 東條 耕 二八
 句法「未嘗不」「雪傷」 練習 二八

三 學書如湍急流 林 長 瑞 二九
 句法「不嘗不」 練習 二九

三 志道精思 近 思 錄 二〇
 句法「未始」 練習 二〇

四 三計塾記 安 井 衡 二二
 句法「何以」「何爲」 練習 二二

五 兼山遠慮 原 善 二二
 練習 二二

六 咬菜軒 中 村 和 二四
 句法「以是」 練習 二四

七 松下禪尼 大 日 本 史 二五
 句法「豈一乎」「不之知」 練習 二五

八 永損世寶 青 山 延 于 二六
 句法「不亦一乎」 練習 二六

九 以儉化國 江 木 戩 二七
 句法「節儉」「宜哉」 練習 二七

三〇 一豐購馬 菊 池 純 二八
 句法「不唯」「無乃此一耶」 練習 二八

三 忠 益 中 村 正 直 三三
 句法「禽獸之不若」 練習 三三

三 謙信信義 頼 襄 三三
 句法「多寡唯命」 練習 三三

三 華盛頓誠信 岡 千 仞 三四
 句法「不三敢」 練習 三四

三 忠教不避 角 田 簡 三五
 句法「何爲者」「況於一乎」 練習 三五

三 高虎公直 木 内 倫 三六
 句法「莫一若」「惡一乎」 練習 三六

後篇 送假名練習 二七
 一 漢字によりて施すべき送假名の暗示 せられるもの 一四〇
 「命遣・屬」「叙・任・補・拜」「若・苟・假令」「唯・獨・特」「如・雨・雪・棹・答」

二 省略せられたる漢字の代りに送假名を施すもの

一四三

三 漢字の位置又は相互の關係によりて、其の施すべき送假名の暗示せられるもの

一四四

イ) 一重の打消の場合

一四四

「不常・不重・難再・不甚・不必・未必・何必」
「不嘗・不獨・豈惟」
「不惟・不亦・敢不・未始」

ロ) 二重の打消の場合

一四六

「非不・莫不・不」
「未嘗不・未始不・無物不・無」
「無」

四 漢字又は漢字の位置によりて施すべき送假名を暗示せらるゝ便宜なく、唯全く前後の關係により、即ち文意によりて特殊の訓を添へて讀まねばならぬもの

一四五

「ニシテ・トシテ・ナリ・タリ・コト・トキ・マデ」
「ゴロ・バ(順説)・モ(逆説)・ニ(逆説)・ハ」

終



漢文階梯

清川初一著

前篇 漢文の組立

一文

我々が何か一つのまとまつた思想を言ひあらはす場合には、必ず

(1) 何がどうする。……………(鳥啼ク。)

文

(2) 何がどんなである。……(水清シ。)

(3) 何がなんである。……(櫻ハ花ノ王ナリ。)

といふ言ひ方をする。かくまとまつた思想を言ひあらはしたものを文といふ。そして、この三つの文の形はすべての文の基本形式を爲すものであつて、これから漢文の組立を學ぶ上に、極めて大切な事柄である。

次の文は三つの文の形式のどれに當るか。

花笑フ。

鳥歌フ。

山高シ。

水深シ。

正成ハ忠臣ナリ。

爛漫^{ラン}花ノ咲キ
ミダレタルサ
A.
駘蕩^{タイ}春景色ノ
ノドガナサマ。

秀吉ハ英雄ナリ。

百花爛漫タリ。

春色駘蕩タリ。

草木繁茂ス。

群童遊戯ス。

大石良雄ハ義士ナリ。

富士山ハ日本第一ノ名山ナリ。

何が、どうする

馬走ル。

牛歩ム。

馬走リ、牛歩ム。

父子親ム。兄弟和ス。

父子親ミ、兄弟和ス。

豊臣氏亡ブ。徳川氏興ル。

豊臣氏亡ビ、徳川氏興ル。

右の文は、みな「何が、どうする。」といふ文の形式である。そして、此等の文の假名で記された部分を取除くと、後に一連の漢字が残る。これが即ち漢文である。

馬走。牛歩。

馬走、牛歩。

漢文

父子親。兄弟和。

父子親、兄弟和。

豊臣氏亡。徳川氏興。

豊臣氏亡、徳川氏興。

支那人は、此の漢文を眞直に音讀して意味が通ずるのであるが、我が國に於ては、此の漢字を或ものは音讀し、或ものは訓讀して、更に前に取除いた「ル・ム・リ・ス・ミ・ブ・ビ」等の假名を補つて普通の文語文に讀むのである。そして、此等の假名は、其の字の右下に片假名で小さく書く。之を送假名といふ。

音讀

送假名

馬走。牛歩。

馬走、牛歩。

父子親。兄弟和。

父子親、兄弟和。

豊臣氏亡。徳川氏興。

豊臣氏亡、徳川氏興。

右の文の中に在る「、」を讀點と言ひ、「。」を句點と言ひ、併せて句讀點と言ふ。

注意

右に示す如く、「何が、どうする。」といふ場合には、文字の位置は邦文も漢文も變りはない。

三十八頁を見よ

句讀點

讀點、
句點。

文字の位置

「邦文と同じき
の」

練習

左の漢文に送假名を施せ。

鳥飛魚躍。

車往馬來。

太郎走次郎跳。

春風吹春水流。

百花开群鳥和鳴。

我軍進擊敵兵敗走。

夫婦相和朋友相信。

一家和合家運繁昌。

大風起樹木動群鳥飛散。

涼風至、白露降、稻穀黄熟。

三 何が、どんなである

山高シ。水深シ。

山高ク、水深シ。

私事ハ輕シ。公事ハ重シ。

私事ハ輕ク、公事ハ重シ。

春風暖ナリ。氣候溫和ナリ。

春風暖ニシテ、氣候溫和ナリ。

百花爛漫タリ。春色駘蕩タリ。

百花爛漫トシテ、春色駘蕩タリ。

右の文は、みな「何が、どんなである。」といふ文の形式である。この場合も、前と同様に假名の部分を取除けば、漢文となり、文字の位置も邦文と變りはない。左の文を讀め。

山高。水深。

山高、水深。

私事輕。公事重。

私事輕、公事重。

春風暖。氣候溫和。

春風暖ニシテ氣候溫和ナリ

百花爛漫トシテ

春色駘蕩トシテ

百花爛漫春色駘蕩

練習 左の漢文に送假名を施せ。

日暖ニシテ氣清ナリ

風靜ニシテ波平ナリ

桃花紅ニシテ李花白ナリ

君恩重ク一身輕ク

富士山高ク琵琶湖闊ク

氣候溫和ニシテ風光明媚ナリ

關 ヒロシ。

明媚ニシテ山水ノ景
ノサツクシキコ
ト。

巍巍トシテ高ク大ナル
サマ。

溶溶トシテ水ノナミ
ナミト流ルルサ
マ。

洋洋トシテ盛ナルサ
マ。

茫茫トシテ廣大ナル
サマ。

山巍巍トシテ水溶溶トシテ

品行方正トシテ學力優等ナリ

河水洋洋トシテ平野茫茫トシテ

松青ク沙白ク海波平ク

四 何が、なんである

正成ハ忠臣ナリ。

秀吉ハ英雄ナリ。

正成ハ忠臣ニシテ、秀吉ハ英雄ナリ。

正行ハ孝子ナリ。

正行ハ忠臣ナリ。

正行ハ孝子ニシテ、忠臣ナリ。

忠孝ハ人倫ノ根本ナリ。

忠孝ハ臣子ノ大節ナリ。

忠孝ハ人倫ノ根本ニシテ、臣子ノ大節ナリ。

右の文は、みな「何が、なんである。」といふ文の形式である。この場合も、前と同様に假名の部分を取除けば漢文となり、文字の位置も邦文と變りはない。
左の文を讀め。

正成忠臣。

秀吉英雄。

正成忠臣秀吉英雄。

正行孝子。

正行忠臣。

正行孝子忠臣。

忠孝人倫根本。

忠孝臣子大節。

忠孝人倫根本臣子大節。

練習 左の漢文に送假名を施せ。

勤勉成功基。

和氣清麻呂、正義士ナリ

重盛孝子ナリ

重盛忠臣ナリ

重盛孝子忠臣ナリ

富士山、我國第一名山ナリ

琵琶湖、我國第一大湖ナリ

富士山、我國第一名山、琵琶湖、我國第一大湖ナリ

○「何々ハ」「何々スルモノハ」といふ場合には特に者

の字を用ひることが有る。

楠正成ハ忠臣ナリ。楠正成者忠臣ナリ

者ハモノ

忠勇ノ精神ハ、我が祖先ノ教訓ナリ。

忠勇精神者、我祖先教

訓。

怠ル者ハ失敗ス。

怠者失敗ス。

勉強スル者ハ成功ス。

勉強者成功ス。

○「何ハ何デアル」「何ハ何ナリ」の場合のナリに對しては也の字をあてて書くことが有る。

楠正成者忠臣也。

豊臣秀吉者英雄也。

○邦文のノは漢文では之と書くことがある。

也ナリ

之ノ

甲 甲斐
越 越後

孝ハ百行ノ本ナリ。
孝百行之本。

富士山ハ我が國第一ノ名山ナリ。

富士山者我國第一之名山也。

甲ノ信玄越ノ謙信ハ英雄ナリ。

甲之信玄越之謙信英雄也。

(イ) 者之也等は邦文では假名で書く。

(ロ) 甲之信玄越之謙信の如く列舉した語の間には二語の中間に「・」をつける。之を黒丸と言ふ。

黒丸

而ニテ

○「何々ニシテ何々ス」とか「何々ニシテ何々ナリ」と言ふ場合にテにあてて而の字をはさむことがある。

○この場合テは上の字の送假名としてつける。

斃レテ後已ム。 斃而後已。

彼幼ニシテ賢シ。 彼幼而賢。

練習

(一) 左の漢文を讀め。

○驕者亡。

○衆爭而進。

○夜深而月明。

驕ルオコ心タカアル。

何が、なんである

吶喊ナツトトキノ聲チアゲル。

標識ヘウ物ノシルシナイフ。

利器ヘイ利ナ器キ械。

稠密チウ家ヤ人ナドカ多クタチコンデキル。

輻輳フク物ガ四方カラ集マル。

大軍吶喊而進。

孔明天下之奇才也。

運動者身體強壯也。

國旗者國家之標識也。

電信電話文明之利器也。

忠孝者我國民性之根本也。

(二)左の文に送假名を施せ。

(イ)大阪關西之一大都也。人烟稠密、商業繁華、貨物輻輳。

(ロ)日本三景者陸前松島・丹後天橋立・安藝嚴島是也。

島是也。

注意 者の字は人事物等の意に用ひ、又事を別つ意にも用ひる。「トハ」と讀むことがある。

五 何が、なんである

櫻ハ、花瓣美シ。

梅ハ、香芳シ。

弟ハ、身體強健ナリ。

銀ハ、色白ク、鐵ハ、色黒シ。

右の文は、「何が、なんである」の形に、「何が」をかぶせた形である。この場合も、假名の部分を除けば漢文と

何は、何がどんなである

なり、文字の位置も邦文と變りはない。

左の文を讀め。

櫻、花瓣美。

梅、香芳。

弟、身體強健。

銀者色白、鐵者色黑。

練習

(一) 左の文に送假名を施せ。

櫻、其色美。

馬、走速也。

牛、其力强。

兄、學業優等也。

鉛、其色黑而質柔。

鐵、其色黑而質堅。

富士山、容姿秀麗、我國第一。

(二) 左の文に送假名を施せ。

(イ) 春氣候溫和、花木繁茂、百鳥和鳴、一年中之好季節也。

(ロ) 東京廣袤五方里、人口二百餘萬、宮城莊嚴、市街繁華、舟車四通、商工繁盛、我國第一之

秀麗シク、スグレテ
サルハ、シイ。

廣袤ハ、ウツ
ヒロサ。

何は、何がどんなである

大都也。

六 修飾した語のある場合

風雨益烈シ。

砲聲盛ニ轟ク。

觀衆頗ル多シ。

水滾々トシテ流レ、山峩々トシテ聳ユ。

右の文の益、盛ニ、頗ル、滾々トシテ、峩々トシテ等の語は、その下に來る語の意味を或は限定したり、或は形容修飾したりしてゐる。この場合も、假名の部分を除けば

滾々コン水ノ流レ
テツキヌサマ。
峩々ガ山ノカドカ
ドシクソビエタ
サマ。

漢文となり、文字の位置も邦文と變りはない。

左の文を讀め。

風雨益烈。

砲聲盛轟。

觀衆頗多。

水滾々流、山峩々聳。

練習

(一) 左の文を讀め。

老而益壯。

雷鳴愈烈。

壯
シサカ

方ニヤ
イ
ウ
ビ

霖雨ウリンナガア
メ
ハル

皎々ケウ月ノ光ナ
ドノ白イサマ。

驟雨ウシワタ立。
閃ヒラピカノト
光ル。
暗澹アン暗クテモ
ノスゴイ。
微風ヒツソヨ風。
心氣キン氣持。

焉矣

池水甚清。
櫻花爛漫開。
太陽赫々出。
雨俄至蛙頻鳴。
日方暮雨俄過。
夜深而月愈明。
月漸出清風颯々至。
東京驛規模頗大。
砲聲既止硝煙又散。
霖雨漸霽新綠殊鮮。

春水溶々流、月色皎々明。
素樸之心日薄、驕奢之風益長。

(二)左の文に送假名を施せ。

(イ) 黒雲俄起、驟雨忽至。電閃雷轟、光景暗澹。既而雨止、夕陽出、微風徐來、心氣自清。
(ロ) 我大日本帝國、氣候溫和、山水秀麗、花鳥風月、四時皆宜。眞世界之公園也。

○文中には時として殘して讀まぬ文字がある。焉矣等は即ちそれである。

我十四歲矣。

聞者皆感嘆焉。

練習 左の文に送假名を施せ。

逆 フムカ
殷 イン 音ノ盛 ニナルサマ。



(一) 敵兵來攻我軍逆戰。砲聲殷々、硝煙暗澹。我軍吶喊進擊焉。敵軍大敗而退、死傷甚多。嚴島周廻七里、彌山高聳、其麓神祠在焉。海岸一帶、白沙遠連、潮滿波動、殿影搖。真奇觀矣。

七 何が、どうする、何を

生徒(書ヲ)讀ム。

搖 ユル

一年生(漢文ヲ)學ブ。

右の文では、「何が、どうする。」だけでは文意が完全に通じない。「何を」といふ「どうする」の目的の語(書ヲ・漢文ヲ)が必要である。

この場合に於ては、たゞ假名の部分を除いただけでは漢文にならぬ。文字の位置が違ふのである。

邦文 何が 何を どうする
漢文 何が どうする 何を

右の如く、漢文では「何を」が「どうする」の下に来るのである。即ち次の如くなる。

文字の位置
「邦文と異なるも」

返點
レ點
(二點)

生徒讀書。

一年生學漢文。

さて、これを讀むのにはどうするか。矢張り邦文と同じ順序に讀むのである。たゞ其の讀む順序を示す爲に一字返る場合には「レ點」の符號を、二字以上返る場合には「一二點」の符號を次の如くつける。之を返點と言ふ。

生徒讀書。

一年生學漢文。

注意

(イ) 啓發・成就等の如く返つて讀む語が二字以上のときは

きは字間に縦線を引き、其の中間の左側に「レ」の符號をつける。

智能ヲ啓發ス。

啓發_レ智能_レ

徳器ヲ成就ス。

成就_レ徳器_レ

(ロ) 邦文と漢文と異なる點は種々あるが、文字の位置

の異なることは其の最も著しい點である。

(ハ) 送假名と返點とを併せて訓點といひ、訓點なき漢文を白文といふ。

練習

白訓
文點

(一) 左の文の□に適當な文字を入れ、且送假名を附けよ。

讀□寫□。

修□學□業。

我始□漢文。

□公益開□。

鍛鍊□精神。

(二) 左の文に訓點を施せ。

旭旗翻風。

幼而好學。

春觀花秋賞月。

鼓舞ハゲマス
意。

鷄告晨犬守夜。

以孝爲百行之本。

責善朋友之道也。

豹死留皮人死留名。

鍛鍊身體鼓舞勇氣。

飼育動物栽培植物。

或嘗訪乃木大將賀戰捷且弔其二子之戰歿。

(三) 左の文を讀め。

明治天皇

明治天皇至仁至聖敬神愛民勵精圖治在位

圖ハカ
在スイマ

四十五年、國運昌盛前古稀。

注意 皇族の如き高貴の方にはタマフ・タテマツルの如き敬語を添へて讀む。

敬語

林春齋

原

善

林春齋剛毅好學博覽多識嘗曰武人執兵而戰效死建功學者讀書立言斃而後已固其所也。

注意 「曰」とあるときは、「……」と、結ぶことを忘れてはならぬ。

原善 念齋ト號ス。江戸ノ人。文化三年歿ス。年四十七。林春齋 鷺峯トモ號ス。徳川幕府ノ儒官。兵 武器。

曰……

ハ何が、どうする、何に。

樵夫(山ニ)登ル。

日本ハ亞細亞洲ノ東端ニ在リ。

右の文では、「何が、どうする。」だけでは文意が完全に通じない。「何に」といふ「どうする」の意味を補ふ語(山ニ・亞細亞洲ノ東端ニ)が必要である。

この場合に於ても、たゞ假名の部分を除いたゞけでは漢文にならぬ。文字の位置が違ふのである。

邦文 何が 何に どうする
漢文 何が どうする 何に

右の如く、漢文では「何に」が「どうする」の下に来るのである。即ち次の如くなる。

樵夫登山。

日本在亞細亞洲之東端。

練習

(一)左の文の□に適當な文字を入れ、且送假名を附けよ。

在□讀書。

就師學□。

登□臨谷。

樹在□、魚棲□。

兄在家弟□外。

(二)左の文に訓點を施せ。

盡忠報國。

沿流而求源。

國運益致隆盛。

卒小學入中學。

入中學學漢文。

常重國憲遵國法。

乘航空機飛行空中。

兄登山狩獸弟乘舟釣魚。

水隨方圓之器、人因善惡之友。
一日之計在朝。一年之計在春。一生之計在少
壯之時。

(三)左の文を讀め。

德川光圀

中村和

德川光圀、賴房子也。賴房嘗曰、我若臨陣被創、
汝能扶持而退乎。對曰、兒進斬敵耳。時年甫七
歲矣。

注意

イ乎の字が句末に在るときは、カ又はヤと讀む。

中村和 栗園ト號
ス。豊前ノ人。
後ニ水戸藩ノ儒
官トナル。明治
十四年歿ス。年
七十六。
賴房 家康ノ第十
一子ニシテ水戸
ニ封セララル。
創(傷)
對(答)
甫(答)
ヤ(答)

於
オイト讀ム
トキハ上ニ返
ル

耳
ノミ

藤田彪 東湖ト號
ス。水戸藩ノ儒
臣。安政二年歿
ス。年五十。

鍾
アツ
蘊
ツム

對
ハ答ノ義ニシ
テ尊者長者等ニ
答フル場合ニ用
フ。

君學漢文乎。
彼知英語乎。
君樂乎否。
禽獸知恩。況於人乎。

(ロ)耳の字が句末に在るときは、ノミと讀む。

日域三絶

藤田彪

日出之域、冠絶萬國。鍾其神秀者、富嶽也。發其
英華者、櫻花也。蘊其精氣者、寶劍也。

黑田如水

中村和

豐太閤問黑田如水曰、天下何物最多。對曰、人

也。太閤又曰、何物最少。對曰、人也。太閤嘉其對。

九 何が、どうする、何と

水(氷ト)爲ル。

源爲朝ハ(鎮西八郎ト)稱ス。

右の文も、「何が、どうする。」だけでは文意が完全に通じない。「何と」といふ「どうする」の意味を補ふ語(氷ト・鎮西八郎ト)が必要である。

この場合に於ても、たゞ假名を除いたゞけでは漢文にはならぬ。文字の位置が違ふ。

邦文 何が 何と どうする

漢文 何が どうする 何と。

右の如く、漢文では、「何と」が「どうする」の下に来る。即ち次の如くなる。

水爲_レ氷。

源爲朝稱_レ鎮西八郎。

練習

(一)左の文の□に適當な文字を入れ、且送假名を附けよ。

氷爲_レ□。

霧_レ□雲。

自 大將。

隆盛號

以義經 大將。

(二)左の文に訓點を施せ。

衆呼而稱快。

鑄金爲貨幣。

義家稱八幡太郎。

義家爲人勇決英果。

以孔子爲大將、以孟子爲副將。

勇決 ユウケツ ヲ
ト決斷スルコ
ト。
英果 エイカ エ
ト。
タケキコト。

於・于・乎

ニ
ヨリ
出所ヲ示
ス。
比較ヲ表
ス。

一〇 「於・于・乎」

於・于・乎等の字が二語の間にはさまれてゐるときはニ
又はヨリと讀む。但しニヨリの假名は下の語に送假
名として施すのである。

迅雷震於庭樹。

名顯于後世。

好學近乎知。

霜白於雪。

忠臣出於孝子之門。

地震之害慘于火災。

金貴於銀、一言之力、重乎千鈞。

練習 左の文に訓點を施せ。

驕奢之心、自存乎心。

健康之福、大於財寶。

孝于父母、友于兄弟。

鶯出於幽谷、遷于喬木。

青出乎藍、而青于藍。

義重於泰山、死輕於鴻毛。

萬惡之原

續蒙求

續蒙求 三卷、周防ノ人黒神正直、李瀚ノ蒙求ニツギテ作レルモノ。

呂祖謙 宋ノ大儒、朱子ト同時代ノ人ナリ。

宋、呂祖謙嘗言、弱者天下之大害、學者之大患、大抵爲善、主於剛、萬惡之原、生於弱。(刪修)

富嶽

富嶽者、東海之名山也。海拔一萬二千餘尺、巍巍聳于雲表、四時戴雪、頗壯觀矣。盛夏之候、登攀者夥。

有馬

有馬者、在攝北。幽邃閑雅、以溫泉聞。泉出乎幽谷、間溫而宜於體、治病頗妙。云。夏時、遊人殊夥。

幽邃スキヲ奥深クシテ物靜カナサマ。閑雅ガシテ靜カテ上品ナサイ。

夥ダシタ多シ。

一一 返るべき特別の字

左に掲げる字は漢文に於ては皆上に返るのである。

(一) 有・無・莫・勿・不・非

有 人能アリ、不能アリ。

人有能、有不能。

前ニ川有リ、後ニ山有リ。

前有川、後有山。

無 我財寶ナシ。

我無財寶。

利アリテ害ナシ。

有利無害。

莫 敢テ進ム者ナシ。

莫敢進者。

幸福コレヨリ大ナルハナシ。幸福莫大焉。

注意

焉

(イ) 焉はコレと讀むことがある。

(ロ) □□□の如く「レ點」が連続してゐる場合には、下から上に順に返つて讀めばよい。

勿(ナカレ)

勿 利ヲ貪ルコト勿レ。

勿貪利。

恩ヲ忘ルルコト勿レ。

勿忘恩。

不(ズ)

不 驕ル者ハ久シカラズ。

驕者不_レ久。

食ハザレバ飽カザルナリ。

不食不飽也。

非(ニアラズ)

非 彼ハ吾ガ敵ニアラズ。

彼非吾敵。

良書ニ非ザレバ讀ムコト勿レ。非良書勿_レ讀。

練習 左の文を讀め。

居_レ治不_レ忘_レ亂。

歲月不_レ待_レ人。

非_二良友勿_レ交。

見_レ義不_レ爲_レ無_レ勇也。

有_二陰德者必有_二陽報。

忠義之行莫_レ大_レ焉。

學若不_レ成死_レ不_レ還。

玉不_レ琢不_レ成器人不_レ學不_レ知道。

(二)可_レ被_レ見_レ所_レ所以能_レ欲

可_レ嚴島ハ風光愛スベシ。

嚴島風光可_レ愛。

陰德 人ノ知ラヌ
所テ善行ヲ施ス
コト。
陽報 アラハナル
△クイ。

琢_レガ

可_レベシ
ス
ベカラ

被_レル
見_レル

被_レ見_レ軍敗_レテ執_レヘラル。

一寸ノ光陰輕ンズベカラズ。一寸光陰不_レ可_レ輕。

軍敗被_レ執。

衆皆斬ラル。

衆皆見_レ斬。

欲_ト
ホツス

欲_ト我文ヲ作ラント欲ス。

我欲_ト作文。

我書ヲ學バント欲ス。

我欲_ト學書。

我答フルコト能ハズ。

我不能_ト答。

疲レテ起ツコト能ハズ。

疲而不能_ト起。

所 小人ノ求ムル所ハ利ノミ。

小人所_レ求_レ利耳。

花ハ余ノ最モ愛スル所ナリ。花余所_レ最愛_レ也。

所以是余ノ勤勉スル所以ナリ。是余所以_レ勤勉_レ也。

能_レアタフ
(その二事目しまふ) 能_レ能_レ能_レ
身 (ノミ) とよす、ある

所_レトコロ

所以_レユエン

四 馬 令 ヌーマフ

忠ハ君ニ事フル所以ナリ。 忠者所以事於君也。

注意 返點が「一二」で足らぬ時は更に「一二三四」と順に足してゆく。 讀むときは一、二、三、四の順序に下から上に返讀すればよい。

練習 左の文に送假名を施せ。

戰敗而國見滅。

欲伸者必先屈。

父母之恩不可不酬。

君子所行所言皆仁義耳。

伸ノテ

大

deru

自遣ミツカラ自ラナ
グサメル。

目不能視耳不能聽者不具也。

乃木大將至誠至忠真可敬仰也。

嘲笑他短所者所以下己品格也。

道真及被配閉門不出託文墨自遣。

張良韓信皆初忍小事是所以終立大功也。

葦原千五百秋之瑞穗國是吾子孫可王之地。

(三) 自從與爲每雖

自 六月ヨリ七月ニ至ル。 自 六月至七月。

禍ハ口ヨリ出デ病ハ口ヨリ入ル。

禍自口出病自口入。

自ヨリ

從_レヨリ

從 大風北東ヨリ來ル。 大風從_レ北東來。

是ヨリ東三里櫻井村ナリ。

從_レ是東三里櫻井村。

與_レト……トハ

與 正成ハ正季ト湊河ニ死セリ。

正成與_レ正季死湊河。

兄ト弟トハ相和スベキモノナリ。

兄與_レ弟可_レ相和者也。

爲_レノタメニ
タリ

爲 師門人ノ爲ニ書ヲ講ズ。 師爲_レ門人講書。

父ハ之ガ爲ニ名ヲ成セリ。 父爲_レ之成名。

櫻ハ花ノ王タリ。 櫻爲_レ花王。

毎_レゴトニ

毎 我歸省スル毎ニ必ズ師ノ家ヲ訪フ。

我毎_レ歸省必_レ訪師家。

雖_レイヘドモ

雖 吾ハ大敵ト雖モ怖レズ。 吾雖_レ大敵不_レ怖。

生等不敏ト雖モ謹ンデ教ヲ奉ゼン。

生等雖_レ不敏謹_レ奉_レ教。

不敏_レン オロカ。

練習 左の文を讀め。

我毎_レ飲食必_レ思_レ農家艱苦。

爲_レ父母盡_レ力爲_レ子者本分也。

謙信與_レ信立構_レ兵勝敗不_レ決。

孔子自_レ幼勵_レ學長仕魯君治績大舉。

政治の功績

厲タカ

倉廩サウ米メケラ。

卓然タクスグレテ
拔出セツタサマ。

平衍ヘイ土地チノ平
カナコト。

枕マシ
殷盛イン盛シンナコト。

如コトシ

易ヤスシ

劍雖利、不厲不斷。材雖美、不學不高。

年大旱、朝廷爲之發倉廩、每人與米四升。

廣瀨中佐、常與士卒分勞苦、能得士心、卓然有

古名將風。

東京之爲地、西北高陵、東南平衍。帶大河、枕內

海、人口越貳百萬、頗殷盛。

(四) 如易難多少

如 兄弟ハ左右ノ手ノ如シ。 兄弟如左右手。

船進ムガ如ク、退クガ如シ。 船如進、如退。

易 行ヒ易ク、守リ易シ。 易行、易守。

難カタシ

多オホシ

少スクナシ

惡ムシ

難 覆水ハ盆ニ復シ難シ。

多 其ノ人ト爲リ、欲多シ。

少 正直ナル者ハ、憂少シ。

練習 左の文を讀め。

多欲者被惡。

霜如雪、紅葉如花。

難勤易怠、人之常情也。

山水秀麗、到處多勝景。

我國氣候溫和、少飢寒之憂。

廣瀨中佐、精忠義烈、視死如歸。

覆水難復盆。

其爲人多欲。

正直者少憂。

人情難於儉而易於奢。不可不慎也。
夫功者難成而易敗。時者難得而易失。

岳飛慷慨

宋

史

宋岳飛慷慨大節。或問曰：天下何時太平？飛曰：「文臣不愛錢，武臣不惜死，則天下太平矣。」

注意 則の字は「何々バ則チ」と讀むときと、「何々ハ則チ」と讀むときの二つの場合がある。多く「トキニハ、

ノ方ハ」の意味に用ひられる。

不學則不知道。

人則武士、花則吉野。

宋史 四百九十六卷、元ノ托克托等勅ヲ奉シテ撰シタルモノ。
慷慨ガイ君ヤ國ノ爲ニナゲキカナシムコト。
大節 人ニスグレタミサチ。
則 バ…スナ
ハ…スナ
ハチ
ハチ

練習 左の文を讀め。

過則勿憚改。

晴則耕、雨則讀書。

我有善、則師喜、我有過、則師怒。

於父母曰孝、於君曰忠、盡其誠、則一也。

一家和合、則家道盛、不和合、則家道漸衰。

人恆歎光陰短促、然善用之、則常足而有餘。

物皆致用。

島田鈞一

鷄告晨、犬守夜、蠶善吐絲、蜂善釀蜜、物皆致用、人而不如物、可恥之甚也。

短促 タン
コト。 ミヤカイ
島田鈞一字ハ士和、青石ト號ス。
東京文理科大学教授タリ。

如シテ

依田朝宗 學海ト
號ス。下總佐倉
ノ人。明治四十
二年歿ス。年七
十七。
一休ノ歌ニ一人
は武士、柱は檜、
魚は鯛、小袖は
紅梅、花はみよ
しの。「トアリ。

宇野哲人 文學博
士、東京帝國大
學兼東京文理科
大學教授タリ。
皎潔カク潔白ニ同
シ。
而ニシカウシテ
謂レハ

吉野櫻花

依田朝宗

古歌云、「人則武士、花則吉野。」吉野山中、櫻最多
處、稱「一目千株。目所及、莫不花、香雲暖雪、不足
比也。」

櫻花

宇野哲人

櫻花、皇國名花也。其花淡素而其色皎潔遠望
之、如雪如霞。三月花時、士女遊賞如狂、稱爲「花
王、亦非無謂也。」

以人為寶

中村和

東照公、一日與豐太閤語。太閤歷數其寶器曰、

白旄、クハ白イ色ノ
指揮旗。

巳
ノヤム
ミ

松村操 信州ノ
人。明治十七年
歿ス。

賴春水 名ハ惟
寬。彌太郎ト稱
ス。廣島藩ノ儒
官。賴山陽ノ父。
狎戲カフナレタハ
ムレル。
邪一カ

角田簡 九華ト
號ス。日向延岡
藩ニ仕フ。安政
二年歿ス。年七
十二。

「凡天下珍器、我皆藏之。不知子所寶何物。」公答
以「無有。太閤問之、不已。公曰、「僕有士五百人。白
旄所指、雖水火不避。所寶是已。」太閤默然、有愧
色。」

賴春水

松村操

賴春水、仕藝侯爲儒臣。素以方正被憚。一醫官
以滑稽進、常狎戲諸臣。侯曰、「逢賴彌太郎、亦能
如此邪。」醫默然而退。

宮崎筠圃

角田簡

宮崎筠圃、幼時母灸其背、泣焉。母曰、「痛乎。」曰、「否。

毀傷シヤウ ソコナ
ヒキズツク。
孱弱セン カヨロ
キコト。
而(シカ)ルニ
稟性センサイレンシ
キ。

童子聞之、身體髮膚、不敢毀傷、孝之始也。而稟性孱弱、不攻則疾。是所以泣也。

一「レ點」と「二點」との複用

(一) □□□□□□の形。この場合には一、二の順序に返読すればよい。

吾欲學聖賢之道。 吾聖賢ノ道ヲ學バント欲ス。

吾不欲立人後。 吾人後ニ立ツコトヲ欲セズ。

(二) □□□□□□の形。この場合にはレ、一、二の順序に讀むのである。

廣島商業

爲一所

士爲知己者死。 士ハ己ヲ知ル者ノ爲ニ死ス。
爲所欲成者。 成サント欲スル所ノ者ヲ爲ス。

(三) □□□□□□の形。この場合にはレ、一、二の順序に返読する。

是非人力所及。 是人カノ及ブ所ニ非ズ。

信長爲光秀所殺。 信長ハ光秀ノ殺ス所ト爲ル。

注意 □爲□□所□□。此の場合には「何は何々に何々される」と言ふ意味になるので、信長爲光秀所殺は「信長被殺于光秀」と同意味である。

練習 左の文を讀め。

唐ウ支那ノ國號。

宿題

猫爲犬所追。
 猫被追于犬。
 人之行莫大於孝。
 日暮不可辨東西。
 己所不欲、勿施於人。
 志士仁人、無求生以害仁。
 義仲幼時、爲齋藤實盛所養。
 富貴而不歸故郷、如衣錦夜行。
 朕雖瘦天下肥矣。
 唐玄宗相韓休、剛直不避權貴、尤爲帝所憚。左

續蒙求

相ウヤ大臣。

太宰純 春臺ト號
 ス。信州ノ人。
 延享四年歿ス。
 年六十八。
 掬キ手デスクフ。
 善買。善キアキウ
 死地チシ 危險ナル
 處。
 服部元喬 南郭ト
 號ス。京都ノ儒
 者。
 山田古嗣 京都ノ
 人。
 喪ウシナフ。
 卷帙チツクン 書物。
 沾濡ジュンヌレル。
 原善 念齋ト號
 ス。山本北山ニ
 學ビ徳川幕府ノ
 儒官トナル。文
 化三年歿ス。年
 四十七。

宿題

右曰、休爲相、陛下殊瘦於舊。帝歎曰、朕雖瘦、天下肥矣。
 不掬糞水、不能成善農。不斷筋脈、不能成善工。不傷肩背、不能成善賈。不踏死地、不能成善士。
 山田古嗣 幼喪母、嘗讀書、至於樹欲靜而風不止、子欲養而親不在、流涕不能禁、卷帙爲之沾濡矣。
 山田古嗣 服部元喬

太宰純

徂徠惜二分陰

原善

箴際ノキサキ。者一コト

平村瓊次郎 文學博士、嘗テ東京帝國大學教授タリ。

圖ハカ

復マタ

物徂徠看書向暮則出就箴際。箴際亦不可辨。字則入對齋中燈火。故自旦及深更手無釋卷之時。其平生惜分陰者率此類也。

笑

市村瓊次郎

諺曰笑門福來。親子夫婦兄弟姊妹和合相助。則家運自開。內多笑聲。故欲笑則不可不圖。一家和合。一家不和合。則家道漸衰。無復笑聲。從戶出者矣。

一三 一字再讀

未 イマダ...
ズ イマダ...
ザル イマダ...

漢文に於ては、一つの字を二度讀むことがある。次に普通用ひられる一字再讀の字を掲げる。

未。余未讀日本外史。余未ダ日本外史ヲ讀マズ。

吾未遊海外也。吾未ダ海外ニ遊バザルナリ。

注意。送假名はイマダ...ズのときは未とし、イマダ

ザルのときは未とする。

練習

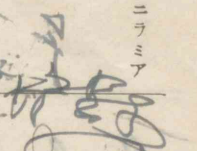
余淺學、未讀論語。

孟子出遊、學未成而歸。

我邦貿易、輸出未及輸入。

相持_シニラミア
ツテ。

使_レ令_シシテ……シム



河水方漲、兩軍相持、未戰。
山陵荒廢者多、吾欲探之、未能也。

使_レ令_シシテ……シム
使_レ人_ヲ讀書_ヲ

令_シ敵國_ヲ請_フ降_ル

人_ヲシ_テ書_ヲ讀_マシム。
敵國_ヲシ_テ降_ヲ請_ハシム。

注意

(イ) 送假名は使_ム□□□□と附ける。

(ロ) 使_レ令_シは假名交り文には假名で書く。

練習

○ 賴朝使義經伐平氏。

○ 父母令兒每晨拜家廟。

當_マサニ……ベ



先生令生徒捧讀教育勅語。

○ 景行天皇使日本武尊討熊襲。

○ 重盛曰、吾使父爲此語、吾罪大矣。

當_レ青年_ハ當_ニ勉勵_ス

人_ハ當_ニ寸陰_ヲ

青年ハ當ニ勉勵スベシ。
人ハ當ニ寸陰ヲ惜ムベシ。

注意 送假名は當と附ける。

練習

○ 兄弟當與戮力。

○ 饑鷹不啄穀。士當尙志。

○ 及時當勉勵。歲月不待人。

一字再讀

封侯ホウ諸侯ニ封
セラルルコト。

將(且)マサニ...ス

大丈夫生不得封侯、死當爲閻羅。

將 吾將學英語。

吾將ニ英語ヲ學バントス。

且 梅花且含笑。

梅花マサニ笑ヲ含マントス。

注意

(1) 送假名は將...と附ける。

(2) 且は普通文には用ひない。

練習

彼將遊于東京。

春風解氷、梅花將綻。

敵且奪我糧。

綻ホフ

宜ヨロシク...ベシ

吾將不戰而屈敵。

正行執父所授刀、將自殺。

宜 學生宜勉學。

學生ハ宜シク學ヲ勉ムベシ。

汝宜慎言語。

汝ハ宜シク言語ヲ慎ムベシ。

注意 送假名は宜と附ける。

練習

飲食宜有常度。

宜以修身爲本。

學者宜自重、不宜自輕。

衆寡不敵、宜騎而突之。

須
スベカラク…
…ベシ

○宜進而進、宜退而退、良將也。

須 軍人須尙武勇。軍人ハ須ラク武勇ヲ尙ブベシ。

學生須簡易質素。

學生ハ須ラク簡易質素ナルベシ。

注意 送假名は須と附ける。

練習

爲事須慎初。

學生須勉學業。

學泗須先學沒。

讀書須熟讀玩味。

猶
ナホ…ゴトシ

須期爲天下第一等人。

猶 人之一生猶一歲之四時。

人ノ一生ハ猶ホ 歳ノ四時ノゴトシ。

我之有孔明、猶魚之有水。

我ノ孔明アルハ猶ホ 魚ノ水アルガゴトシ。

注意 送假名は猶と附ける。

練習

學猶登山。

過猶不及。

○兄弟之子、猶子也。

盍
ナンゾ・ザル

兄弟猶一木、有枝、一氣之分體也。

國民慕其君、猶赤子於慈母。慈母愛ある母

盍 汝盍一言。 汝ナンゾ一言セザル。

君盍賜錦直垂。

君ナンゾ錦ノ直垂ヲ賜ハラザル。

注意

(イ) 送假名は盍と附ける。

(ロ) 普通文には此の字は用ひない。

練習

汝盍讀論語。

胄チウ子孫。
殊功コウスケレダ
テガラ。

盍早自爲計。

子源氏胄也。盍爲將立殊功。

校長曰、諸子將卒中學。盍各言其志。

將起風俄起、舟人不肯。義經曰、風順盍發。

一四 返點「上中下」「甲乙丙」

(一) 「上中下」は「レ、一二三」の返點をはさんで更に返る返點である。

讀未會見之書。

當惜寸陰勉勵。

會カツテ

和歌

猶揮快刀斷亂麻。

(二)「甲乙丙」は「レ、一、二、三、及び上中下」各種の返點をはさん

で更に返る返點である。

宜得備才德者友之。

可以解漢文法解英文。

一段奇快

謝肇澗

謝肇澗 支那ノ明ノ人。字ハ在杭。

讀未曾見之書。歷未曾到之山水。如獲至寶。嘗異味。一段奇快。難以語人。

靜心以書

中村和

小早川隆景使書佐急作書。謂之曰。事急矣。宜

隆景 毛利元就ノ第三子

書佐 書記。

靜心以書之。書佐由是無誤寫。

孟母斷機

蒙求

蒙求 三卷、唐ノ李瀚撰ス。

孟子既長。出就外師。及學而歸。母問學所。至。孟子曰。如舊。母以刀斷機上。織曰。汝中道廢學。猶吾斷此機也。孟子懼。旦夕勤學不息。遂成大賢。

以忘初爲誠

貝原篤信

貝原篤信 益軒ト號ス。筑前ノ人。正徳四年歿ス。年八十五。

衆人居富多忘貧。須節儉而無奢侈。居貴多忘故舊。當存恤而不疏。歲長多忘父母。須終身思慕。病癒多忘慎。須常思病苦時。凡自修者。當以忘初爲誠。

存恤 存恤ト云フ。トヒメケム。

頼 襄山陽ト號
ス。安藝ノ人。
天保三年歿ス。
年五十三。

○ 宿

豊太閤豪語

頼

襄

豊太閤將^{シテ}伐^ク朝鮮^ヲ發^ス京師^ヲ或曰^ク盍^ニ以^テ善^ク漢文^者上
從^テ太閤笑曰^ク吾此行將^{シテ}使^ス彼用^フ我文^耳下

一五 何が、どうする何を、何に

我(花ヲ)嵐山ニ觀ル。

頼朝(幕府ヲ)鎌倉ニ開ク。

右の文は、「何が、どうする 何を。」と「何が、どうする 何に。」との二つが一つになった形である。従つて文字の位置も邦文とは違ふ。

於・于・乎

注意

「何ヲ」と「何ニ」との間には、屢々於于乎の文字が置かれることがある。

何が—どうする—何ヲ—(於于乎)—何ニ
信長築城於清洲。

尊氏送正成首于河内。
利根川發源乎上野文珠山。

練習

(一) 左の文に送假名を施せ。

國民當盡忠於皇室。

男子須揚名於後世。

結構和文、取法於漢文。

今宥賴朝、是猶放虎於野。

林羅山幼而讀書於東山僧舍。

宣長晨夕潛心書籍、不治家事。

有スル

題

運スガラ 工夫スル。
帷幄ヲ 戰略ヲメ
ケラス陣屋。
頒布ハン 分チシ
ク。

賴朝盡委六萬兵於義經、範賴。

我觀花于芳野、賞月於須磨。

運籌帷幄之中、決勝千里之外。

明治五年、詔全國募兵、頒布徵兵令于天下。

(二) 左の文の□に適當な文字を入れ、且送假名を施せ。

生徒質疑於師。

生徒求教於師。

淀川發源乎琵琶湖。

正成舉義兵於河内。

足利氏開霸府于京師。

霸府ハ 幕府ノコト。

何が、どうする何を、何に

孝經 孝道ヲ説キ
シ書。作者ハ諸
説多キモ曾子ノ
門人ナルベシ。
毀傷キヤウ
ケル。 キズツ

晉シシ 支那ノ國
號。

小學 六卷、宋ノ
劉子澄、名ハ清
之、子澄ハ字。
其ノ師朱子ノ指
授ヲ受ケテ纂述
セルモノ。

刺史シ州ノ長官。
驥ヘキシキガハ
ヲ。又ハカメト
モイフ。
中原 國ノ中央。
徒爾シムナシク。

芟鋤シカリス
ク。轉シテ賊ナ
ドヲ打チ平ケル
コト。

而ヘシカレドモ

徒スワシ

(三) 左の文を讀め。

孝 孝 經
身體髮膚、受之父母。不敢毀傷、孝之始也。立身、
行道、揚名於後世、以顯父母、孝之終也。

螢雪之苦 蒙 求

晉、車胤、大好學。家貧、不得油。夏月、則盛螢於囊、
照書讀之、以夜繼日焉。
孫康亦貧、冬夜映雪讀書、勵精不倦。後二人皆
顯于世。

陶侃運甓 小 學

晉、陶侃爲廣州刺史。在州無事、則朝運百甓於
齋外、暮運於齋內。人問其故、答曰、吾方致力中
原、徒爾遊逸、恐不堪事。

鎧袖一觸 賴 襄

爲朝進而言曰、臣大戰二十、小戰二百、以芟鋤
九國。以小擊衆、每夜攻。臣請、今夜襲高松殿、
火其三方、而要之一面。其善戰者、獨有臣兄義
朝。而臣一矢斃之。至如平清盛輩、臣鎧袖一觸、
皆自倒耳。則乘輿必不得不出。臣乃加矢其從
兵、徙輿於此、而奉陛下於彼。易如反掌。則東方

何が、どうする何を、何と

未^ダ白^ケ大事集^{コト}矣。

一六 何が、どうする何を、何と。

人我ヲ才子ト謂フ。

君彼ヲ宰相ト爲ス。

右の文は、「何が、どうする 何を。」と「何が、どうする 何と」との二つが一つになった形である。従つて文字の位置も邦文と違ふ。

邦文 何が 何を 何と どうする。

漢文 何が どうする 何を 何と。

右の如く、「どうする」の下に「何を」「何と」が来る。

人謂我才子。

君爲^ス彼宰相。

練習

(一)左の文に送假名を施せ。

人謂彼大丈夫。

世崇廣瀬中佐軍神。

上者謂之天下者謂之地。

高望王賜姓平氏拜上總介。

漢字右者爲之旁左者爲之扁。

一六 何が、どうする何を、何と

大槻清崇 磐溪
ト號ス。仙臺ノ
人。明治十一年
歿ス。年七十八。
者
コト

鹽谷世弘 宕陰
ト號ス。幕府ノ
儒官。慶應三年
歿ス。年五十九。

(二) 左の文を讀め。

 豊公天


大槻清崇

豊太閤之圍、小田原、天晴、海穩者、五十餘日。爾
後海濱之人、遇、連日晴、謂之豊公天。

謂天下、何、

鹽谷世弘

德川家康、病革、顧、大將軍曰、吾將死、汝謂天下
何。對曰、將復亂矣。家康曰、善、吾可以死也。

 眞知我者

松村操

賴山陽名襄、字子成、稱久太郎。安藝人。平生耽、
讀書、勤著述。常曰、謂我才子、未悉我者也。謂我

拮据キツ、勞シハメ
ウクコト。
刪潤シユン、ヨクナ
ホシトトノヘル
コト。

能、刻苦者、眞知我者矣。其著日本外史、拮据刪
潤、經二十餘年、而始成之。

一七 反 語

左には最も普通に用ひられる反語を掲げることにする。

何、以、私事、害、公事、哉。

何、足、深、悲。

注意 哉の字が句の終りにあるときは、場合に依りて
「ヤ」の外に「カ」又は「カナ」と讀むことがある。

哉
カカヤ
ナ

何
ナンゾ
(ヤ)

矢亦有_二人心哉_一。
嗚呼美哉。
吾又何羨乎。
帝謂皇后曰、朕既富矣、復何憂乎。
何以不遇盤根錯節、何以別利器乎。
男兒生斯世、醉生夢死、一無可稱道者、將何以報國恩。

何
ナニラカ・
ン(ヤ)
何以
ナニラモツテカ
・
ン(ヤ)

豈
アニ・
ン(ヤ)
アニ・
ズ(ヤ)

豈 未來之事、豈得豫料哉。
吾人豈不學而可乎。
山姿水態、豈不美麗乎。

乃木大將、豈不誠大丈夫哉。

注意

(イ) アニ……ン(ヤ) (ドウシテ何々デアラウカ、決シテ何々テナイ)。

(ロ) アニ……ズヤ (ナント何々テナイカ、實ニ何々デアアル)。

安 人民_ニ乏_二自治精神_一、安得_レ收_二其美果_一哉。
燕雀安知_二鴻鵠之志_一哉。

何待_二來年_一 原 善
歲暮、菅得庵謂_二林羅山_一曰、余未_レ讀_二通鑑綱目_一、請、

羅山 名ハ道春、
徳川幕府初代ノ
人。
通鑑綱目 ツガン
宋ノ朱熹及ビ門
人趙師淵ノ編シ
タル歴史ノ書。

先生以^ニ明春^ヲ爲^ニ余^ガ講^セ之^ヲ。羅山曰^ク、子^ノ心誠^ニ求^ム之^ヲ、何^レ待^ツ來^ル年^ヲ、卽^チ以^テ除^ク日^ヲ講^ス起^ル。

仁厚愛物

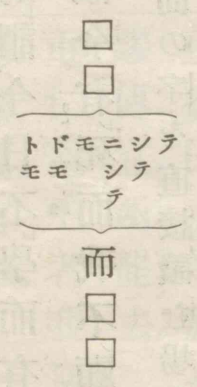
鹽谷世弘

阿部忠秋 徳川家光ニ仕ヘテ老中ト爲ル。延寶三年卒ス。年七十四。
輒^ニスナハチ故^ニコトサラン
惻然^{トシテ}イタムコト
器使^シ才能^ニ應ジテ用フ。
資装^シ嫁入^ルノ仕度。

阿部忠秋、仁厚愛物。每^ニ出^ル見^レ途^ニ有^ル棄^ル兒[、]輒^チ收^メ養^フ之^ヲ。窮民待^ツ忠秋過^リ、往往^ニ故^ク棄^ル之^ヲ。由^テ是^レ所^レ收^メ歲^ニ數^ニ十^ニ人[、]其^ノ宰^ム患^ム之^ヲ、伺^ヒ閒^ヲ諫^ス之^ヲ。忠秋曰^ク、人孰^カ不^レ愛^ム子^ヲ。而^{シテ}至^ル於^テ棄^ル之^ヲ、思^フ其^ノ父^ノ母^ノ之^ノ心[、]安^ク得^ズ不^レ惻^シ然^{トシ}。且^{シテ}所^レ鞠^ク育^ム、隨^ヒ長^ク用^フ之^ヲ、不^レ爲^ル耗^ス財^ヲ。其^ノ後^ニ所^レ收^メ養^フ日^ニ長^ク。男子[、]隨^ヒ才^ニ器^ヲ使^シ、女子[、]爲^シ資^ヲ裝^シ嫁^ス之^ヲ。

注意 而の字がテシカモ又はシカルニシカレドモと

讀まれることは既に學んだ所であるが、尙ここには此等を纏めて用法を説明しよう。
(一) 直接に而の字を讀まずに、其の上の語の送假名として讀む場合は左の如くである。



此の場合には普通而の字の上に句讀點がない。
信長見^テ而^{シテ}大^ニ驚^ク。
大軍突^ク喊^シ而^{シテ}進^ム。

弗不

吾十有五而志于學。

視之而弗見、聽之而弗聞。

樹欲靜而風不止、子欲養而親不待。

勿謂今日不學而有來日。

假令有死而我不顧。

(一)而の字を直接讀む場合は左の如くである。

□□。而
シカウシテ(シカシテ)
シカモ
シカルニ

此の場合には普通而の字の上に句讀點がある。

關東八州自古稱用武之地而永亨以來無

永亨 後花園天皇
ノトキノ年號、
足利義教ノ頃。

平治 二條天皇ノ
トキノ年號。

復定主。

年爲平治地爲平安而我平氏也。

東夷有勇而無智。

人不能無友而友不能皆賢。

重盛曰、汝等應召即來、真不負平生而事出

謬傳、宜亟罷去。

重仁親王者、我父所覆育也而我思故院遺

詔、獨屬官軍。

上杉景勝、豪邁而膽勇、其臨陣、矢丸雨下、呼

聲震天地而身尙臥幕中、鼾聲如雷。

凡邦俗、男子必剃其鬚髻而、清正長髯自喜。

重仁親王 崇德
上皇ノ皇子。
故院 ナクナラレ
タ鳥羽法皇。
豪邁 ガウ人ニスグ
レテ意氣ノサカ
ンナコト。

成島良讓 字ハ儉
 廬、竹山又ハ礫
 堂ト號ス。徳川
 幕府ノ奥儒者。
 嘉永七年歿ス。
 年五十二。
 先考 亡父チイ
 フ。
 教シム

長篠 東三河ニ在
 リ。天正三年
 織田・徳川兵チ
 併セテ大ニ武田
 勝頼チ此ニ破レ
 リ。
 宿將 前代ヨリノ
 名將。
 弱子 ヲカキムス
 勝頼 信玄ノ子。

正行大悟 成島良讓
 正行訣父還河内。既聞父死湊川悲痛欲自殺。
 母趨止之曰、先考豈教汝殉邪。要在起兵討賊、
 以靖國難也。正行大悟、自此嬉戲常爲搏戰馳
 逐之狀、日以討賊復讐爲事。

何以對天下 賴 襄

勝頼敗於長篠也。武田氏老臣宿將多死。越後
 將士、說謙信曰、甲斐兵新敗、可乘也。謙信曰、我
 與信玄、數十戰不能取。及其死、侮弱子、乘敗取
 之、何以對天下。

仁德天皇

青山延于

青山延于 拙齋
 ト號ス。水戸藩
 ノ儒者。天保十
 四年歿ス。年六
 十八。
 聖ヶ シツクヘノ
 コト。
 百姓セイヤ 萬民。
 類敗ハイカヅレヤ
 プレル。
 暴露ロク アマザラ
 シノコト。

土屋弘 鳳洲ト號
 ス。泉州岸和田
 ノ人。大正十五
 年歿ス。年八十
 六。
 二子 勝典
 保典

仁德天皇即位都攝津難波。謂之高津宮。宮室
 不聖、務從節儉。一日、帝登臺遠望、炊煙不起。以
 爲百姓窮乏。詔除課役三年。宮垣頽敗、無所營
 作。其後、帝復登臺遠望、見炊煙盛起、謂皇后曰、
 朕既富矣、復何憂乎。后曰、今宮室朽壞、不免暴
 露。何謂富乎。帝曰、君以民爲本。民富則朕富也。
 未有民富而君貧者矣。

幾萬愛兒 土屋弘

旅順既降。或訪乃木大將、賀戰捷、且弔其二子。

法然センサメザメ
ト泣ク。

大將トシヤ泣然トシヤ曰、七月以來、我喪ニ幾萬、愛兒ヲ矣。如ニ吾
二子ヲ守リ平生訓言耳。何足ニ深悲ニ哉。嗚呼此、一語、
可以ニ泣シ神人ニ矣。

爾靈山

乃木希典

爾靈山ナレドモ險カラシヤチ豈難カランヤチ攀。男子功名期ス克難カクトナニ。
鐵血覆ヒ山山形改ル。萬人齊仰爾靈山。

乃木希典 山口藩
士、陸軍大將。
大正元年九月十
三日明治天皇ノ
大葬ニ遣ヒ、愛
悼禁ヘズ、遂ニ
妻靜子ト共ニ殉
死ス。古武士ノ
典型、武士道ノ
權化タリ。乃木
神社ニ崇祀セラ
レ、大正五年正
二位ヲ贈ラル。

中篇 總練習及び句法

一 伊勢神宮

青山延壽

句法

(イ) 是為ス內宮、以テ是為ス內宮。

(ロ) 葺ツ以テ茅、以テ茅葺ツ。

五十鈴川上ホトニ祀ヒ天照大神。是為ス內宮。神ノ殿葺ツ以テ茅。
殿宇不ニ崇高ナラ。左右有ニ寶殿、有神門。皆係ニ茅葺ツ。
儉德不レ文カザラ、以存ニ上古遺風。真可ニ敬仰ニ也。宮外老
樹參リ天、鬱鬱葱葱。蓋千年外物。使人悚然ト。外宮

青山延壽 鐵棺
ト號ス。水戸ノ
儒者ナリ。明治
三十九年歿ス。
年八十七。

上ホト
是為ス
葺ツ以テ

文カザラ
葱ツツ草木ノ青
青ト茂ルサマ。
悚ウシオソル。

規制 ヲクリカ
タ。

會澤安 水戸ノ
儒官ナリ。文久
三年歿ス。年八
十二。

可不哉

祀_ニ豐受_ト大神。殿宇規制與_ハ內宮無_レ異。(改修)
練習~~ヲ~~進_ニ君子退_ニ小人爲_ニ急。一

教之以道。一

二敬 神

會澤安

句法 可不_ニ一哉(反語)一可_ニ一也。

皇大神之祭、歷朝崇敬尤篤。蓋事_レ神者、誠敬爲_レ
本。宜直_ニ其心、清_ニ其身。生爲_ニ日域之民、而世浴_ニ神
聖恩澤者、可不_ニ由其禮、求_ニ其義、以知_ニ報_ニ其本、反_ニ
其始矣哉。(改修)

反語

- (イ) 國民豈可不_レ盡忠義哉。一
- (ロ) 國民豈可不_レ盡忠義。一
- (ハ) 國民可不_レ盡忠義哉。一

三 清磨、忠節

青山延壽

句法 未_ニ之有_ニ也。

孝謙帝朝、僧道鏡謀不軌。帝令_ニ和氣清磨詣_ニ宇
佐、奉幣八幡宮。清磨歸、復命曰、「臣親受_ニ神勅。云、
我國家開闢以來、君臣分定矣。以_レ臣爲_レ君、未_ニ之

不軌キフムホン。
詣ルイタ參拜スル。

未之有也

皇緒シヨワツ 皇統。
覬覦キキ 分外ノコ
トチネヲヒツカ
ガフ。

懶惰マンダ ナマケル
コト。
賊ナツコ コロス。

有也。天日嗣必立皇緒。而道鏡何者敢覬覦神器。大逆無道宜早翦除焉。道鏡大怒流清麿於大隅。

練習 懶惰而成功者未之有也。子而賊親者未之有也。

使役

令清麿詣宇佐受神勅

老松古杉森森使人悚然

師教生徒讀教育勅語

大將俾士卒冒死奮進

其精忠義烈以感動人

四菅公忠愛

青山延于

句法 (イ) 未嘗忘忠愛之意。常不忘忠愛之意。

(ロ) 莫不感歎。皆感歎。

菅原道真歷事五朝尤爲宇多帝所信任隨事獻替多所匡救及被配閉門不出託文墨自遣雖謫居無聊未嘗忘忠愛之意重陽後一日賦

詩曰

去年今夜侍清涼 秋思詩篇獨斷腸

恩賜御衣今在此 捧持每日拜餘香

聞者莫不感歎

五朝 清和・陽成・光
孝・宇多・醍醐。
爲一所
獻替ケンタイ 善キヲス
スメ悪シキヲス
テテ天子ヲ輔佐
シ奉ルコト。
謫居タクキヨ 流サレテ
遠地ニ居ルコ
ト。
無聊ムリョウ 不愉快。
未嘗
重陽チュウヤウ 陰曆九
月九日。
莫不皆

練習

未嘗忘君恩也。人莫不飲食也。

每晨未嘗廢書。衆莫不稱其德。

受身

(1) 軍敗被執。

被賞於先輩。

(2) 以功見賞。

見信於同僚。

(3) 信長爲光秀所弑。

義仲幼時爲齋藤實盛所養。

(4) 多欲則役於物。

治人者食於人，食人者治於人。

(5) 菅原道真初尤爲宇多帝所信任，後以讒貶。

食ナラフ

又五 正成獻策

賴

襄

句法

(イ) 何必抗議。——不必抗議。

(ロ) 命正成行援義貞。

延元元年 (一九九六)

延元元年五月，尊氏大舉東上，水陸竝進。義貞軍兵庫，飛書告急。朝廷震動。時北畠顯家已歸鎮，京師兵寡。帝命正成行援義貞。正成答曰：尊氏新舉九國而來，其鋒甚銳。我以疲兵格鬪，無他奇道，其敗必矣。爲今計者，陛下復幸叡山，召還義貞，縱賊入京師，而臣歸河內，絕其糧道，則賊兵日散，我兵日聚。於是夾而攻之，可一戰而破也。義貞之計，蓋亦出此。顧慮人言耳。戰道非

縱 ハナツ

可キク
前役先ニ尊氏鎌倉ヨリ西上セシ
役何必

一、要歸於勝。願朝廷再計之。諸公卿皆然之。獨參議藤原清忠不可曰、賊雖衆盛、不過如前役。王師有天命、宜防之外也。帝從之。正成退謂其子弟曰、事已至此、何必抗議。

練習 榮枯盛衰、世之常也。何必用憂貧賤。

頼朝命義經討平氏於西海。

六 兒島高德

頼 襄

句法

- (イ) 盍要奪駕以舉義。何不要奪駕以舉義。
- (ロ) 遣人候之。遣人候之。

(ハ) 間道至杉坂。自間道至杉坂。

高德謂其衆曰、吾聞志士仁人有殺身以成仁見義不爲無勇也。盍要奪駕以舉義。衆奮從之。伏舟坂山而待。久之不至。遣人候之。曰、駕向山陰道。乃間道至杉坂、則已過矣。衆乃散去。高德悵悵不能去。乃變服尾駕而行數日。欲一見帝有所言、而不得間。於是夜入帝館、白櫻樹而書之曰、天莫空勿踐。時非無范蠡。

練習 遣人調實情。遣部下察敵情。

君盍自勵。



於
言マウス
間道
乃
遣シテ
シム

Handwritten notes and signatures in the top right margin, including the characters '乃' and '遣'.

敵大軍四面來攻。

又

七 孝

禮

記

句法

敢不敬乎。(反語) 不敬。(否定)

禮記四十九篇、
周未秦漢時代ノ
諸儒ノ古禮ニ關
スル說ヲ輯メタ
ルモノ。

也者
敢不—乎

身也者。父母之遺體也。行父母之遺體。敢不敬乎。居處不莊。非孝也。事君不忠。非孝也。泄官不敬。非孝也。朋友不信。非孝也。戰陣無勇。非孝也。五者不遂。裁及於親。敢不敬乎。

練習 君命敢不聽乎。學問事業、父母之所期待、敢不勉乎。

懈怠
ル。 オコタ

至誠事君、不敢顧身命。研學修德、不敢寸時懈怠。

岩垣松苗
長等、諱亭又ハ

東園ト號ス。京
師ノ儒者。嘉永
二年歿ス。年七
十六。

八 父母之遺體

岩垣松苗

句法

(イ) 不必讀書。——不必讀書。——有讀有不讀。
(ロ) 行三年之喪。(…)ト云フコトデアル。
(ハ) 身體髮膚莫適而非父母之遺體。
(ニ) 不祥莫大乎。是——不祥莫大焉。

川井正直年將五十始學山崎闇齋。闇齋謂之曰、「入道莫如敬。子不幸過時。不必讀書。每事躬」

不必

異ニ云
異 アヤシム。
梟 フクロフ。親
ヲ食フ鳥ナリ。
故ニ不孝ノ者ニ
喩フ。
莫大乎是

莫適而非

行敬、則可也。正直服膺其語、終身不忘。父母歿、終行三年之喪云。嘗有告父母、不慈於正直者。正直不答流涕。告者異問之。正直曰、子言爲梟鳴。不祥莫大乎是。子之至吾家、則父母之脚也。子之告不慈、則父母之舌也。凡頭目以至手足、莫適而非父母之遺體也。以父母之遺體、告父母之不慈。此以枝擊幹、以血沃血也。天地之所不容、王法之所不宥。故曰、不祥莫大乎是。言畢而泣。告者愧謝。後遂爲孝子。

練習 我國西南端至東北端有約一千二百里云。

百行之中、莫重乎忠孝之道。
我國莫適而不山。
仁者必有勇、勇者不必有仁。

說苑二十卷 漢ノ劉向撰ス。

漢支那ノ國號。

何以是也

九 伯俞悲泣

說

苑

句法 (イ) 今泣何也。

(ロ) 是以泣。是故泣。(ソ) レデ泣ク。

漢韓伯俞有過。其母笞之。泣。母曰、他日笞子、未嘗泣。今泣何也。對曰、俞得罪笞常痛。今母之力、不能使痛。是以泣。

練習 汝承父遺命歸來告我。今乃汝先忘之何也。
少年易老學難成。是以學者最要惜時日。

一〇 泰時友愛

賴

襄

句法

(イ) 何自輕也。

(ロ) 奚擇。無擇也。

(ハ) 重職何爲。重職不爲何用。

執權北條泰時爲人敦親族。嘗在評定所。聞弟朝時第有寇。即起赴援。平盛綱曰。是小事耳。公任重職。何自輕也。泰時曰。兄弟有難。何曰小事。

泰時 義時ノ長子。鎌倉ノ第三代執權。敦シツ評定所 鎌倉幕府ノ會議所。何一也

以吾視之。與建保承久二役。奚擇。苟喪吾親。重職何爲。朝時書藏於家曰。世世子孫。毋背武州裔也。

練習

業成名遂。何自憂如此也。

人而不知禮。與禽獸奚擇。

人苟不行道。富貴何爲。

一一 棄欲思義

句法

(イ) 隨折隨斷。隨折而斷。

(ロ) 何不和之有。何有不和。不有不和。

建保元年(一八七三)和田義盛北條氏ヲ攻ム。承久三年(一八八一)後鳥羽上皇、北條義時ヲ討タシメタマフ。

奚擇 何爲 武州 泰時武藏守 毋ナカレ

糾ス、一所ニスル。

隨一隨一

濟ス事ヲシトケル。

何不和之有

邦文ニテ
全文ノ
立見
何知敗之有

毛利元就病將死致諸子於前呼取箭數條一
如其子之數乃手自糾爲一束極力折之不能
斷也單抽其一條隨折隨斷因戒曰兄弟猶此
箭也和則相依濟事不和則各人各敗汝等銘
心勿忘次子隆景進曰夫兄弟之爭必起於欲
棄欲思義何不和之有元就悅以爲然顧餘子
曰宜從仲兄之言

練習

隨行隨進

何知敗之有

願

二 隆景押字

句法

何以遺狀爲何爲以遺狀不爲以遺狀

裏シツカバヒ出テ
テ、サシツヲ受
ケ。
押字ヲフカキハン
ノ字。

何以爲

征韓之役諸將在朝鮮連署稟事隆景花押點
畫甚繁福島正則傍觀謂之曰押字宜疏不宜
密不然臨死作遺狀不能速成也隆景笑曰大
丈夫當橫屍原野何以遺狀爲正則有愧色

練習

何以謝罪爲

一三昔爲主君今爲兇徒 賴 襄

句法

彎弓於其兄孰與推刃於其父

懼懼セフ
オッレ
ル。

弱齡 若年ノ意。

辟易ヘキ
シリゴミ
スル。

平清盛攻西門。其將伊藤景綱、與二子伊藤五、
伊藤六先進。爲朝射之。洞五之胸、而著六之袖。
清盛懼懼而退。獨其騎山田伊行返戰。爲朝又
射斃之。馬逸入義朝陣。鏃穿鞍、大如巨鑿。部將
鎌田政家取而獻之。曰、「八郎君所爲也。」義朝曰、
「彼弱齡、未當至此。詐設以怖敵耳。汝嘗試之。」政
家自呼而進。爲朝曰、「爾非吾家人乎。」對曰、「昔爲
主君、今爲兒徒。」射中其胄。爲朝大怒、與二十八
騎、闢門突出。政家辟易退走。
義朝以二百騎馳之。呼曰、「吾奉宣旨來。汝盍速

乃ソレノニ

孰與孰若

毀ソシリ

廣瀨建 淡窗ト號
ス。豐後ノ人。
龜井元鳳ニ學ビ
詩文ヲ善クス。
安政二年歿ス。
年七十四。

資ヨル
切磋セツ 學問ナド
ヲ研究スルコ
ト。
可以
藉ヨル
乃コレノ意

降、乃彎弓於其兄乎。爲朝曰、「判官公受院宣、令
爲朝等拒戰。且彎弓於其兄、孰與推及於其父。」
因大戰。

練習 與_{ヨリハ}其有_{ラン}譽_ニ於前、孰若無_{カラン}毀_ニ於其後。

一四 擇_レ 交、 廣瀨 建

句法 可以進德。以□可進德。

昆弟親戚、固當不論賢愚而厚之。其他莫如擇
交。無事則資其切磋、可以進德、有事則藉其謀
慮、可以成功。乃我友也。

練習 勤勉努力、可以成名。切磋琢磨、可以進德。

一五 白石薦朋

原

善

句法

(イ) 何國之擇、何擇國、不擇國。

(ロ) 薦諸加賀、薦之於加賀。

薦ムス
諸之於
戚然セン悲シミイ
タムサヤ。
語ッダ
衰頹タイ衰ヘスタ
レルコト。
聞リヨ里ノ門。
先谷セン世話ノ
意。
仕シ仕官ノコト。

新井白石、少入木下順庵門、學成不得志。順庵欲薦諸加賀。岡島仲通加賀産亦順庵門人也。聞之戚然語白石曰、予負笈遠遊、若干年于茲。比得家書、老母日逼衰頹、倚閭待予歸。每一念至、百感聚心。幸賴吾先生先容、得仕本藩、則願

何國之擇
儉薄ハク人情ノ薄
イコト。

足矣。白石即告順庵、以此言曰、余求仕、何國之擇。請舍予、薦彼。順庵嘆曰、世衰道微、日入儉薄。如子絕無而僅有者、乃推岡島于加賀。後二年、舉白石子甲府侯。時年三十七。

練習 何人之擇。

Ⅱ

遺諸子孫。

Ⅰ

一六 桂林莊雜詠示諸生 廣瀨 建

休道他鄉多苦辛。 同袍有友自相親。
柴扉曉出霜如雪。 君汲川流我拾薪。

同袍ハウ朋友互ニ
相救フ義。
柴扉サイ田舎ズイ
ヒノ門ガイハ。

一七 學校

貝原篤信

句法 不可一日而無義理

不可一日而無一
是以是故
逸居イソキヨキヨナマケテ
アソビアソビチル。

天下不可一日而無義理。無義理則人道廢矣。是以國家不可一日而無學校。無學校則義理之教不興。人倫之道不明。故曰：飽食暖衣、逸居無教，則近於禽獸。

練習 國家無氣節之臣，則滅。是以國家不可一日而無氣節之臣。

一八 講學勤業

貝原篤信

句法

(イ) 難再得。再難得。

(ロ) 不重來。重不來。

(ハ) 豈可廢時曠日乎。不可廢時曠日。

曠 ムナシ

不重來
難再得

人之講學勤業，皆以時日之力。故志士惜日短，嗚呼，此日難再得，今年不重來。是以學者最要惜時日。豈可廢時曠日乎。

練習 今日不重來。今日重不來。

今年難再得。今年再難得。

豈可為惡陷罪乎。

陶潛 支那ノ東晉ノ人。宋ノ元嘉四年歿ス。年六十三。

釋月性 知圓清狂ト號ス。周防ノ妙圓寺ニ住セリ。

朱熹 晦庵ト號ス。南宋ノ大儒。慶元六年歿ス。年七十一。

一九 勸學之詩

(イ) 勸學之歌

陶 潛

盛年不重來。

一日難再晨。

及時當勉勵。

歲月不待人。

(ロ) 題壁

釋 月 性

男兒立志出鄉關。

學若不成死不還。

埋骨豈期墳墓地。

人間到處有青山。

(ハ) 光陰不可輕

朱 熹

少年易老學難成。

一寸光陰不可輕。

未覺池塘春草夢。

階前梧葉已秋聲。

日記故事 作者詳カナラズ。

二〇 雪案螢窓

日記故事

句法 不常得油。常不得油。

晋 支那ノ昔ノ國名。
清介 心が清クシテ人ヲ容レル量ノ乏シイコト。
御史大夫 官名。
案机。

晋孫康、少清介、交游不雜。家貧無油。嘗映雪讀書。後官至御史大夫。今人以書案爲雪案。由此也。

不常

晋車胤、幼恭勤博覽。貧不常得油。夏月以練囊盛數十螢火、照書讀之、以夜繼日。後官至尙書郎。今人以書窓爲螢窓。由此也。

尙書郎 官名。

練習 不常得登山。常不得登山。

東條耕琴臺卜號
ス。江戸ノ人。
明治十一年歿
ス。年八十四。

二一 忍痛受業

東條耕

句法

(イ) 未嘗不越師家闕。常越師家闕。必越師家闕。

(ロ) 雪傷

小川泰山 名ハ
信。江戸ノ人。
天明五年歿ス。
年十七。
山本北山 名ハ
信有。江戸ノ人。
文化九年歿ス。
年六十一。
執業シテ門人トナ
ルコト。
未嘗不
顛蹶ケンツマツキ
タフレルコト。
令(シテ)シム

小川泰山年僅七歲、執贄於山本北山。雖烈風大雨未嘗不越師家闕。嘗大雪戴一巨笠赴之。途未至半、雪積笠重、力不能勝、顛蹶傷膝。人愍扶之、勸令返家。不肯。遂至師許、忍痛受業。若常比隣傳爲美談矣。

練習 吾讀史而至於楠公傳、未嘗不感憤歎息。

天黑而雪。入夜大雨。棹舟而歸。鞭馬而歸。

二二 學書如泝急流

林長孺

句法

不啻不離舊處。不啻不離舊處而已。

天龍河、流急。上流尤甚。余嘗命舟、自船明村、至橫山村。時雨後水肥、流益急。舟人執棹、窮力櫂之、進寸退尺、終不能達。

蘇東坡云、學書如泝急流。用盡氣力、不離舊處。余始以坡論爲誠然。今泝此河、不啻不離舊處。又退舊處。但此際、兩崖絕壁、奇勝不可言。因其

林長孺 鶴梁卜號
ス。江戸ノ人。
明治十一年歿
ス。年七十三。
船明村 遠江國磐
田郡光明村ニ屬
ス。
橫山村 同國山香
郡龍川村ニ屬
ス。
棹ヲウ 船ニ棹サス
コト。
蘇東坡 名ハ軾。
字ハ子瞻。東坡
ハ其ノ號。宋ノ
文學者。
不啻

進退一處得縱觀之、亦急流之賜也。

練習 立身出世、不啻一身之榮、所以顯父母之名也。

二三 志道精思

近思錄

句法

未始須臾息。

先生終日危坐一室、左右簡編、俯而讀、仰而思、有得則識之。或中夜起坐、取燭以書。其志道精思、未始須臾息。亦未嘗須臾忘也。

練習 我志道勤學、未始須臾怠也。

近思錄十四卷、朱子下呂祖謙下ノ同シク撰スル所ナリ。
先生支那宋ノ横渠先生チサス。

二四 三計塾記

安井 衡

句法

(イ) 何以名吾塾。

(ロ) 何爲過慮其晏起與春嬉也。

三計者何。一日之計在朝、一年之計在春、一生之計在少壯之時也。何以名吾塾。慮諸生之晏起與春嬉也。凡遊吾塾者、皆有志於此道者也。何爲過慮其晏起與春嬉也。人少則恃於年、氣盛則動於物。恃於年而動於物、惰嬉之所由生也。惰嬉既生、則一生之計亦荒矣。故入吾塾者、不可不思三者之計也。

安井衡字ハ仲平、息軒ト號ス。日向ノ人ナリ。明治九年歿ス。年七十八。
晏起アン朝寢。春嬉キエン陽氣ニ浮カレテアソビクラスコト。
何爲(ナン)スレ

此道 聖人ノ道。

懶惰者、何以能成功。乃汝何爲不勵志勤力也。

二五 兼山遠慮

原

善

句法

- (イ) 無物不有。無不有物。
- (ロ) 以爲嘗異味。以爲嘗異味。
- (ハ) 不獨饋諸卿。不獨饋諸卿而已。

野中兼山、嘗來江戶、及歸期也、致書鄉人曰、土佐無物不有、自江戶齋歸、唯有蛤蜊一艘耳。海路幸無恙、以歸日饋之。衆以爲嘗異味。計日待歸。既至、則命投其所漕於城下海中、不餘一箇。

野中兼山 名ハ止。字ハ良繼。土佐藩ノ執政。寛文三年歿ス。年四十九。
無物不 蛤蜊ヲハマゲリ。(アサリ) 饋ルヲ以爲

不獨 飫

衆怪問。兼山笑曰、「此不獨饋諸卿、使卿子孫亦飫之也。」自此後、果多生蛤蜊、遂爲名產。衆始服其遠慮。

練習

苟得其養、無物不長。苟失其養、無物不消。

以爲時未至。

運動不獨壯健身體、亦以爽快精神。

男兒生斯世、醉生夢死、一無可稱道者、不啻辜負

君父、將何以俯仰天地。

辜負 フソムク。

二六 咬菜軒

中村 和

句法

以是爲知足之警耳。

重矩 下野烏山ノ城主。寛文五年(三三五)老中ニ補セラレ。追オヨブ昔者散官サン職務ノヒイナ役。驕溢イフ甚シクオゴリニ流ルルコト。以是

板倉重矩、種菜于園中、有客手摘以薦之。區其廬曰咬菜軒。迨貴或謂之曰、昔者君居散官、其咬菜也固也。今爲老中、而猶咬菜、恐來識者之譏。重矩曰、大抵人情位高祿多、則忘貧賤時、驕溢以災其身者、往往有之。余不肖、聊以是爲知足之警耳。

練習

君子慎獨。我以是爲誠。

河海不擇細流。是以能成其大。

大日本史 二百四

十六卷、徳川光

二七 松下禪尼

大日本史

句法

(イ) 我豈不之知乎。我知之。

(ロ) 我不之知。我知之。

北條時頼母安達氏、秋田城介景盛女也。稱松
下禪尼。嘗爲時頼設食。兄義景來助治具。尼方
手裁小紙糊補紙格。義景請命人爲之。尼不顧。
義景曰、補之不若新之之省勞。尼曰、我豈不之
知乎。凡物有小破、宜修補之。欲使兒輩知此意
耳。人謂時頼克守勤儉、政理寧靜、亦母教之使
然也。

治具、物事ノ準備。
紙格、障子ノコ
糊補、切り張リ
スルコト。
不之知
謂、イフ
使、シテシム

賊ヲフ

練習

子而賊親者、我未之知也。
眞知之、爲知之可也。

二八 永 損 世 寶

青山延于

句法

不亦大乎。(反語)

嘗夜行過滑河、誤墜錢十文於水。藤綱乃出錢五十文買炬、雇夫照水搜索獲之。或笑其得不償失。藤綱曰、不爾十錢雖小、失則永損世寶。五十錢布在民間、彼此六十錢、終不失一錢其利不亦大乎。聞者歎服。

滑河ガナリ 鎌倉ノ
主水脈ニシテ大
倉谷ノ奥十二所
ニ發源シテ、由
井ヶ濱ニ至リテ
海ニ入ル。長サ
五十町バカリナ
リ。

說 悅ニ同ジ。

愠 イキドホル。
イカル。ウラム。

江木戩 鱒水ト號
ス。明治十四年
歿ス。年七十二。

練習

孔子曰、學而時習之、不亦說乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。人不知而不愠、不亦君子乎。

二九 以 儉 化 國

江 木 戩

句法

(イ) 節儉率下。——以節儉率下。

(ロ) 宜哉、爲世之名辟、臣民稱其德、至今。——爲世之名辟、臣民稱其德、至今、宜哉。

上杉鷹山公爲世子、既有以儉化國之志。及即位、身穿綿衣、節儉率下、士猶有衣帛不從命者。公憂勞、一夕不能寢、手觸衣、起曰、臣子不從命、

靡然ビシ 德風威風
ナドニナビキシ
タガフ。
名辟メイ 名君メイ 同
ジ。

我之罪也。吾綿衣帛其裏。是我行欺也。於是衣服衾枕不用寸帛。臣民靡然一時從命。嗚呼立志如此。行誠如公。宜哉。為世之名辟。臣民稱其德至今。

練習 忠孝仁義化國。

宜哉、為世所尊崇。

宜乎、國富兵強。

乎一カナ

菊池純 三溪ト號
ス。紀伊ノ人。
明治二十四年歿
ス。年七十三。

三〇 一豐購馬

菊池 純

句法 (イ) 不唯一豐一人之榮。不唯一豐一人之榮而

己。

(ロ) 何其忍之甚耶。甚矣其忍之也。

(ハ) 無乃此耶。無乃此耶。

山内一豐、仕織田氏也。適有東國人來販名馬者。安土將士皆驚其神駿。然為價貴之故、不能購也。販者將牽馬徒還。一豐見之、不勝流涎。歸家自嘆曰、痛哉貧也。我當事君之初、獲此名馬、以見主公者、不唯一豐一人之榮。抑亦織田氏之榮矣。其妻聞之、就問價。曰、黃金十兩矣。妻曰、夫君必

矣一カナ

山内一豐 尾張
ノ人。初メ信長
ニ仕ヘ、後秀吉
ニ、又家康ニ從
フ。慶長十九年
歿ス。年六十。
織田氏 信長ヲ指
ス。天正十年
其ノ臣明智光秀
ノ爲ニ、本能寺
ニ圍マレテ自殺
ス。年四十九。
安土 近江國蒲生
郡ニアリ。
痛哉 也
不唯一
者一バ

辦 ベト トリハカラ

鏡 ケン 匱 ケン カガミ

比來 ヒ キカ

何 ナニ 甚 シ 耶 ヤ

貧 ヒ 窶 ク マツシク

簡 カン 馬 バ テヤツレル

閱 エン スルコト。馬

無 ム 乃 ナ 此 コノ 耶 ヤ

無 ム 物 モノ 可 カ 方 カタ

無 ム 幾 ケ

欲 ホシ 獲 ト 之 ノ 妾 メカ 能 シ 辦 セ 焉 ヤ 乃 シテ 取 リ 金 カネ 於 ニ 鏡 ケン 匱 ケン 致 シ 之 ノ 一 ヒト 豐 トヨ 前 マヘ 一 ヒト 豐 トヨ 喜 ヨシ 且 カ 恨 ミ 曰 ク 比 ヒ 來 キカ 貧 ヒ 困 ムシ 卿 ケイ 所 ノ 熟 ス 知 ル 而 シテ 卿 ケイ 絕 エ 不 レ 言 ハ 有 リ 金 カネ 何 ナニ 其 ノ 忍 ム 之 ノ 甚 シ 耶 ヤ 妻 メカ 曰 ク 夫 ツ 君 キミ 言 ハ 亦 モ 有 リ 理 リ 顧 ミ 昔 イマ 者 ノ 妾 メカ 之 ノ 來 リ 嫁 ヤ 也 ヤ 妾 メカ 父 チチ 自 ラ 納 メ 之 ノ 鏡 ケン 匱 ケン 戒 イハ 曰 ク 汝 ニ 勿 ク 以 テ 夫 ツ 家 ノ 貧 ヒ 窶 ク 費 ヒ 此 ノ 金 カネ 必 ズ 有 リ 關 ケ 係 ケル 夫 ツ 君 ノ 大 ニ 事 ニ 然 レ 後 ニ 用 ヒ 之 ノ 妾 メカ 聞 キ 近 キ 日 ノ 京 ノ 師 ノ 有 リ 簡 カン 馬 ノ 之 ノ 舉 ゲ 今 ノ 夫 ツ 君 ノ 而 シテ 獲 メ 此 ノ 馬 ノ 是 レ 一 ヒト 世 ノ 之 ノ 榮 ナリ 而 シテ 所 レ 謂 フ 大 ニ 事 ニ 無 ク 乃 シ 此 ノ 耶 ヤ 是 レ 以 テ 及 レ 之 ノ 耳 ニ 一 ヒト 豐 トヨ 泣 キ 而 シテ 謝 ス 曰 ク 卿 ノ 之 ノ 惠 ト 與 ヒ 舅 ノ 氏 ノ 之 ノ 恩 ト 海 ノ 岳 ノ 高 ク 深 ク 無 ク 物 ノ 可 ク 方 カタ 遂 ニ 購 フ 其 ノ 馬 ノ 無 ク 幾 ク 簡 カン 馬 ノ 之 ノ 期 ノ 至 リ 矣 ヤ 一 ヒト 豐 トヨ 乃 シ 騎 リ 而 シテ 入 リ 京 ノ 風 ノ 骨 ノ 峻

爽 セイス 奮 フン 鬣 ゲツ 一 ヒト 嘶 シ 信 シ 長 チヤウ 望 ボウ 見 ケン 不 レ 問 フ 而 シテ 知 ル 爲 ス 良 ニ 馬 ノ 大 ニ 驚

曰 ク 猪 イノ 右 ウダ 何 ナニ 所 ノ 獲 ケル 此 ノ 乘 ノ 乎 ヤ 一 ヒト 豐 トヨ 具 ク 告 ス 其 ノ 故 ノ 信 シ 長 チヤウ 歎

曰 ク 我 ガ 家 ノ 多 ク 士 ノ 而 シテ 不 レ 能 シ 購 フ 一 ヒト 馬 ノ 洵 ニ 爲 ス 上 ノ 國 ノ 之 ノ 恥 ニ 汝

落 ラク 魄 ハク 歸 ヒ 於 ニ 我 ニ 乃 シ 能 シ 爲 ス 此 ノ 非 ニ 常 ノ 之 ノ 舉 ゲ 以 テ 洗 ス 雪 ノ 我 ガ 恥 ニ

武 ブ 夫 フ 用 ユ 心 シン 不 レ 當 ラズ 如 ク 此 ノ 耶 ヤ 一 ヒト 豐 トヨ 釋 シヤク 褐 カク 五 イハ 百 ヒャク 石 シヤク 於 ニ 是 ニ

增 ゾウ 爲 ス 千 セン 石 シヤク 遂 ニ 以 テ 見 ル 任 ニ 用 ス

練 レン 習 シツ 人 ノ 何 ナニ 其 ノ 悲 シ 之 ノ 甚 シ 耶 ヤ

無 ク 乃 シ 實 ニ 盛 ニ 耶 ヤ

不 レ 唯 ニ 君 ノ 一 ヒト 人 ノ 之 ノ 榮 ナリ 又 モ 君 ノ 家 ノ 之 ノ 譽 ナリ 也 ヤ

猪 イノ 右 ウダ 衛 ヱ 門 メン 之 ノ 略 リョク 稱 シヨウ

上 ウヘ 國 クニ 都 ト 二 ニ 近 チカ 諸 シヨ

落 ラク 魄 ハク 歸 ヒ 於 ニ 我 ニ 乃 シ 能 シ 爲 ス 此 ノ 非 ニ 常 ノ 之 ノ 舉 ゲ 以 テ 洗 ス 雪 ノ 我 ガ 恥 ニ

釋 シヤク 褐 カク 五 イハ 百 ヒャク 石 シヤク 於 ニ 是 ニ

不 レ 當 ラズ 如 ク 此 ノ 耶 ヤ

中村正直 數字
ト號ス。東京ノ
人。明治二十四
年歿ス。年六十
七。
忠益 マゴコロチ
盡シテ世ノ益
ニナルコトヲス
ル。
耒 イスキ。

三一 忠 益

中村正直

句法

禽獸之不若矣。不若禽獸。

把耒而耕者、農夫之忠益於邦國也。製造貨物者、工人之忠益於邦國也。運物行遠者、商賈之忠益於邦國也。操練備非常者、步卒之忠益於邦國也。至公無私、興利除害者、居官者之忠益於邦國也。人不問貴賤、苟能勉強其職事、則心廣體胖、浩然之氣生矣。而其利益必及於他人、加於邦國、不獨安一家而已也。若夫暖衣飽食、無所事事、則終日昏昏嗜欲橫生、不獨不能忠

胖 カユク
浩然之氣 天地
ニ恥ザザル正大
ノ氣。
而已ノミ
昏昏 心ノ暗キ
サマ。
嗜欲 ヨク コノミヤ
ヨク。

禽獸之不若

益於他人、一生之間、徒耗損他人所力作之粒米布疋也。如此則禽獸之不若矣。禽獸之肉、尚可用以充食、懶惰之人成何用乎。

練習

我才能常人之不及。是我憂也。

三二 謙信信義

賴 襄

句法

多寡唯命

武田信玄、國不濱海。仰鹽於東海。今川氏真與北條氏康謀、陰閉其鹽。甲斐大困。上杉謙信聞之、寄書信玄曰、聞氏康氏真困君以鹽。不勇不

陰 カヒソ
困 シクル

賈人^{ゴン}商人。
平價^{アタリマ}
ヘノネゲンニシ
テ。

義我與^{ナリ}公爭^{フモ}所^ハ爭^ハ在^ニ弓箭^ニ不在^ニ米鹽^ニ請自^レ今以
往^レ取^ニ鹽於^レ我國^ニ多寡^ニ唯命^ヲ乃命^ヲ賈人^ニ平價^ヲ給^レ之。

練習 欲^ハ右則^ハ右^ニ欲^ハ左則^ハ左^ニ唯君所^レ欲。

岡千仞^{鹿門ト號}
ス。仙臺ノ人。
大正二年歿ス。
年八十二。

三三 華盛頓誠信

岡 千 仞

句法 兒不^ニ敢^テ欺^ク大人^ヲ。

華盛頓^{亞米利加}
合衆國^{初代ノ}
大統領^{西紀千}
七百八十九年^ニ
大統領^{トナリ}
千七百九十九年^ニ
歿ス。年六十
八。

華盛頓^{ワシントン}爲^レ人深沈^ニ有^ニ識量^ヲ幼時得^ニ一斧^ヲ欲^ハ試^シ利
鈍^ニ斬^レ伐園中花木^ヲ其父素^ニ好^ム種樹^ヲ見^レ之大怒^ヲ呼
頓詰問^シ意色甚惡^ク頓恐^レ得罪^ヲ將^レ託^シ之他人^ニ既而
謂^ク人無^ニ誠信^ヲ則不^レ可^ニ以^テ爲^ス人^ト乃告實^曰是皆兒

不^レ敢^テ

之所^ヲ爲^ス非他人所^ニ與^ル知^ル兒不^レ敢^テ欺^ク大人^ヲ以重^シ其
罪^ト父聞^レ之怒釋^シ抱頓喜^曰兒幼^ニ知^ニ誠信^ヲ可^レ貴^ク吾
不^レ忍^テ鞭^レ之^ヲ。

練習 義則君臣情則父子不^ニ敢^テ容^テ覬覦^ス。

愛親者不^ニ敢^テ惡^ム於人^ニ敬親者不^ニ敢^テ慢^ム於人^ニ。

師者教我而令爲^レ人者也敢不^レ從^テ其命^ヲ。

慢^ル

三四 忠教不^レ避

句法 (イ) 汝等何^ニ爲^ス者^ヲ。

(ロ) 況^ニ於^テ我^ハ是^レ官人^ト乎^ヲ。

故コトナ

爲マホス
何爲ナンスル
況一乎

尋常小學讀本卷
第十五課「公
事と私事と」參
看。
木内倫 龍山ト號
ス。讚岐ノ人慶
應三年歿ス。年
五十八。

宇治貢茶於幕府、路上避人例也。大久保忠教
遇之、途故不避。吏呵之、忠教爲不知曰、「汝等何
爲者」曰、「此是官茶、當避之。」忠教曰、「茶豈貴於人
哉。況於我是官人乎。宜避我矣。」

練習 我俄而遇途怪漢、問曰、「汝是何爲者。」

諺曰、「百金買宅、千金買隣。」況於友乎。

三五 高虎公直

木内倫

句法

(イ) 莫加藤嘉明若莫若加藤嘉明。

(ロ) 惡敢徇私憾而廢公議乎。不敢徇私憾而廢

公議

藤堂高虎 伊勢
津藩ノ祖。寬永
七年歿ス。年七
十五。
加藤嘉明 賤嶽
七本槍ノ一人。
三河ノ人。寬永
四年、會津ノ領
主ヲ以テ歿ス。
年六十九。
大猷公 徳川三代
將軍家光ノ諡
號。
弗不
莫一若
德ハツカレ極マ
ル。
階イ和合スルコ
ト。
惡敢一乎
感愧カン心ニ感ジ
テ恥ヅ。
修睦シヨシミチ
ヲサメル。睦
シクナカヨクス
ル。

藤堂高虎、初與加藤嘉明、因事相惡。會蒲生忠
郷卒、會津城無主。大猷公以其要鎮、殊難其代。
密諭高虎移之、領四十萬石。高虎辭以老、德弗
就。公問、誰可者。對曰、「以臣觀之、莫加藤嘉明若
焉。彼其材略、真可委任也。」公訝之曰、「聞卿與彼
不諧久矣。如何舉之。」曰、「是國家之大事也。臣惡
敢徇私憾而廢公議乎。」公喜從其言。嘉明深自
感愧、遂與修睦。 (刪修)

練習 花莫梅花清楚若。

逞シタス

富貴は人所^ユ欲^レ然^レ惡^レ敢^レ逞^レ私^レ欲^レ

富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲
富貴は人所欲然惡敢逞私欲

文意の通ずるやうに普通の文語文によむ

後篇 送假名練習

漢文を読む場合には、「何が」「どうする」「どんなである」
「なんである」等の關係を考へて、文意の通ずるやうに送
假名を施すのである。そして、讀下した所のものは普
通の文語文でなくてはならぬ。故に何れの場合に於
ても「文意の通ずるやうに」と云ふことと、「讀下した所
のもの」普通の文語文である」と云ふこととは、常に念頭
を離してはならぬ。
併し、句によつては語の省かれたものや、特殊の語法が

特殊の訓を添へて讀むもの

有つて、或特殊の訓を添へて讀まねば文意の通ぜぬものがある。

(一) 漢字によりて施すべき送假名の暗示せられるもの。

命ツテ シム

命 君命ツテ臣ニ討カシム賊。

人争赴衆、公命レ奴就寡。

庖人ジンハウ料理人。

黑田孝高命ニ庖人ヲ、羹アツモノ魚骨ニ以饗客。

遣シテ シム

遣 主君遣シテ從者ニ諭サシム之。

我遣人窺敵情。

屬シテ シム

屬 我屬ニ善字者ニ寫サシム論語數篇。

家人屬之於東隣姻家飼。

叙補任叙
セラル

叙任補拜

源經基叙ニ從五位下ニ、拜ニ武藏介。

彼任ニ陸軍中將ニ、補ニ某師團長。

葛原親王叙ニ四品任ニ、式部卿。子高望、賜ニ姓

平氏ニ、拜ニ上總介。

若シ バ

若 君若シ有ニ一點仁心ニ、願救ニ吾命。

雪レ冤エスダ無實ノ罪チノゾク。

子若欲雪冤、宜就而陳事由。

苟モ

苟 苟知書、豈蒙此恥哉。

苟有爲孝、安得不賞。

假令トモ トモ

假令 我假令死、不違命。

人假有^{クヒ}大望遠略、意志不^レ鞏固、何得^レ遂志乎。

臣受^レ君恩久矣。唯^ダ有^ル一死以報^レ君。

皇統一系連綿、獨^ハ有^ル我國矣。

我於^レ公非有^レ怨仇、特^ダ爲^ス義清輩。

請自^レ今以往、取^レ鹽於我國。多寡、唯^ハ命^ニ。

爲朝日、即^チ被^レ許、甲之鬲、胄之題、唯^ハ阿兄所命。

臣等世受^レ君恩、不^レ以^レ隆替易志。窮^レ海極^レ天、唯^ハ君所適^ニ。鳥獸且^チ記^レ恩、況^シ於^レ人乎。

唯
マ
マ
ノ
ミ

唯 獨 特

高クワ 鏡ノムナイ
タ。
題 胄ノ眞甲
(ミカヘシ)

記 記憶スル。

コト
如
シ

蝟毛^{マウ}ハリネズ
ミノ毛。
雨^{フル} フル
雪^{フク} フク
棹^{カス} カス
管^{ツツ} ツツ

如

其勵志勤力如^レ此。
義光奮戰、被^レ矢如^レ蝟毛。

雨・雪・棹・管

昨夜大雪^{フレイ}。

今朝大雨^{フレイ}。

伯俞有^レ過、其母笞^レ之。

日且暮、自棹^レ而返。

(二)省略せられたる漢字の代りに送假名を施すもの。

彼以^レ武名^{アリ}。

戰不利而退。

アリ
(アラ)(有)

ヨリ(自・從)

ヨリ

謂_レ學不_レ暇者、雖_レ暇亦不能_レ學。

敵四面來攻。

汝何所獲_レ此乘乎。

宜_三早爲_二勤勞之習慣也。

モテ(以)

モテ

目食。特旨授位。

虜列_二大艦鐵鎖聯_レ之。

上杉鷹山公、身穿_二綿衣、節儉率_レ下。

ニテ(以)

ニテ

舌嘗試_レ之。

侯命_二善射者、強弓利鏃射_レ之。

細井平洲、嘗來_二米澤、鷹山公鹵簿迎_レ之於

ゴトニ(每)

郊。

ゴトニ清正率_二見兵五百人、人負_二糧食、登舟赴援。

宜_下令_二天下家藏_二孝經一本、精勤習誦_上。

シム(使・令)

シム

汝首_レ實、即許_レ去。

宇治貢_二茶於幕府、路上避_レ人例也。

慷慨淋漓_{カウガイ}
非常_ニナゲク。

慷慨淋漓、聲淚共隨、其音足感_二木石_一。

直義馬傷而墮。我兵垂_レ及、有一敵兵、將_二遮

鬪而逸_レ之。

ラル(被・見)

ラル

兒當_二父流竄_一、悲泣相隨。

著稱_{シヤヨ}
特ニホ
メレ。

仁齋有_二五子、原藏、才藏最著稱。

菅原道眞、歷事五朝、尤爲宇多帝所親任。後以讒貶、爲太宰權帥。

(三) 漢字の位置又は相互の關係によりて、其の施すべき送假名の暗示せられるもの。

(イ) 一重の打消の場合

不常 彼不常來余家。

不重 今年不重來。

難再 此日難再得。

不甚 淀川、水流不甚急。

〔不常有〕 常不有。〕

不常
不重
難再
不甚

不必

不必 子曰、仁者必有勇、勇者不必有仁。

富貴者不必樂、貧賤者不必憂。

未必 名聞利達、未必足誇也。

能成大業者、未必高才之士也。

何必 何必曰利、有仁義而已矣。

公家豈有不霽威、何必草草爲也。

〔不必〕 必不

〔何必〕 不必

不啻 勉強職事、則不啻安一家也。

男兒生斯世、醉生夢死、一無可稱道者、不

何必
威
草々
アラテル。

不啻
ノミナラ

不獨 ノミナラ

嘗^ニ辜^シ負^シ君^ノ父^ヲ、將^シ何^ニ以^テ俯^リ仰^リ天^ノ地^ノ。
夫^レ過^リ者[、]自^ラ大^ニ賢^ニ、所^レ不^レ免^レ也。不^レ獨^リ衆^ノ人^ノ也。

豈惟 ノミナラ

運動^シ不^レ獨^リ壯^ニ健^ニ身^ノ體[、]又^ニ以^テ爽^ニ快^ニ精^ノ神[、]
浴^シ潮[、]豈^ニ惟^ニ養^フ病^ヲ亦^ニ大^ニ益^ニ於^テ身^ノ體[、]
學者[、]往^リ往^リ、以^テ文^ノ學^ヲ爲^シ風^ノ流^ノ玩^ノ具[、]此^レ豈^ニ惟^ニ學^者
者^ノ之^レ罪[、]抑^シ亦^ニ教^者之^レ罪^也。

〔豈惟——不惟〕

不亦一乎 反語

不亦一乎。

人^ニ而^シ無^ク禮[、]雖^シ能^ク言^フ不^レ亦^ニ禽^ノ獸^ノ之^レ心^乎。
子^レ曰[、]學^シ而^シ時^ニ習^シ之[、]不^レ亦^ニ說^ク乎[、]有^リ朋^ト自^ラ遠^ク方[、]

慍 イキドホル、イカル、ウラム。

來[、]不^レ亦^ニ樂^ク乎[、]人^ノ不^レ知^リ而^シ不^レ慍[、]不^レ亦^ニ君^ノ子^乎。

〔不亦——乎。——亦不——。〕

敢不 反語

敢不

臣^ト敢^テ不^レ聽^ク命[、]

兄^ノ弟[、]父^ノ母^ノ之^レ分^ノ體^也。敢^テ不^レ親[、]

身^ノ體[、]髮^ノ膚[、]父^ノ母^ノ之^レ遺^ノ體^也。敢^テ不^レ敬[、]與[。]

〔敢不——不敢〕

未始 未始少忘也。

志^ノ道^ノ精^ニ思[、]未^レ始^ニ須^ル與^息也。

(口) 二重の打消の場合

與 カヤ

未始 コト

息 ヤム

非不シム

非不 我非不願富貴。

莫不シム

我非不愛兒也。不欲使習奢耳。

不シム

莫不 聞者莫不感嘆。

不シム

父母無不愛其子。師無不愛其弟子。

不シム

不シム

事已至此。不敢不告。

弟子不必不如師。師不必賢於弟子。

未嘗不シム

未嘗不戰。未嘗不尅。

尅シム

未嘗不廢書而歎也。

未始不シム

未始不未始不之知也。

相須マツ互ヒ助ケ合フ。

無シム(物)不シム

無物不有。無不有物。

無シム(物)不シム

未始不感憤嘆息也。
二者未始不相須也。

我邦無物不有。

忠臣孝子無世無之。

君子無入而不自得焉。

苟得其養。無物不長。苟失其養。無物不消。

凡頭目以至手足。莫適非父母之遺體也。

無シム無シム

無貴無賤。莫不死。

無古今。無治亂。正者遂勝。

(四) 漢字又は漢字の位置によりて施すべき送假名を暗示せらるゝ便宜なく、唯全く前後の關係により、即ち文意によりて特殊の訓を添へて讀まねばならぬもの。

ニシテ

ニシテ春風暖、百花開。

孟軻三歲喪父。

筆勢非凡、丹青之妙不可言。

トシテ

トシテ春風駘蕩、花笑鳥歌。

諄々ジユン
ホシゴ
ロニ。

師諄々教子弟、不倦。

我國開闢以來、皇統連綿、君臣之分定矣。

(ナリ)

(ナリ)

身體强健、品行方正。

タリ
(タラ)

タリ
(タラ)

欲忠、則不孝。欲孝、則不忠。

目所及、莫不花。

劍雖利、不厲。不斷。材雖美、不學不高。

父父、子子。君君、臣臣。

君雖不君、臣不可以不臣。

城内、古松蒼鬱、瑞雲鬢鬢。

葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可王

之地。

コト 吾辛勤多年、幸得無飢。

余負笈遠遊、有年於茲。

笈フキ 書物ヲ入レ
テ負フモノ(オ
ヒ)

トキ

衆者恃勢、其心不一。寡者懼而專力、其勝必矣。

トキ

淺見綱齋自少好學嗜武。

新井白石爲兒、嬉戲常寫天下一三字。

皇儲クワウ皇太子。

英皇儲嘗來朝、我皇太子殿下親迎之于

橫濱。

マデ

マデ

自旦及深夜、手無釋卷之時。

凡頭目以至手足、皆父母之遺體也。

孔子之死、距今二千四百餘年也。而上自

天子下至庶人、莫不崇拜之者。

ゴロ

ゴロ

中微而不顯。

我有弊甲凋兵、近苦無事。

林羅山嘗造某許、講論語集註、中脫一葉。

命令禁止

君子有過、則謝。君以實謝。

無道人之短、無說己之長。

認書簡、須慎重。寫訖、審讀一過而後封緘。

用兵之法、無恃其不來。恃吾有以待之。無

恃其不攻。恃吾有所不可攻。

ハ(順説)

ハ(順説)

送假名を施す上に於て最も誤り易きは順説のバと逆説のモ、ニとである。これは前の數

者と同じく文意即ち文の前後の關係によりて知るの外はない。

戰必勝、攻必取。

人不學、不知道。

子誠欲學、何待來年。

無遠慮、必有近憂。

彼奴輩、最嗜酒、不醉不樂。

民乏自治精神、安得收其美果也。

日沒于山陰、月昇於林上。出看前川、月影

映於水、甚有光輝。豈不美麗乎。

モトモ (逆説)
ドトモ
ニ (ノニ) (逆説)
ナリ
也ヤ
讀マヌトキ

飯フラ

ニ (逆説) 第六潜水艇、不幸沈沒也、艇長佐久間大

尉直令部下執應急之法、終不浮揚。

新羅王欲降、伊企儼不屈。

學若不成、死不還。

一難未去、一艱復來襲。

孔子曰、飯疏食、飲水、曲肱枕之、樂亦在其

中。不義富且貴、於我如浮雲。

舟人執棹、窮力棹、流甚急、終不能達岸。

吾徒悔無益、當改過勵行、立大功於天下、

以償前失耳。

一夫不耕、天下受其飢、一婦不織、天下受其寒。

有田不耕、倉廩虛、有書不教、子孫愚。

鸚鵡能言、不離飛鳥、猩猩能言、不離禽獸。

今人而無禮、雖能言、不亦禽獸之心乎。

義經曰、風順盍發。伊勢義盛張弓注矢曰、

不用命者射殺。

林羅山嘗造某許講論語集注、中脫一葉。

乃操筆暗寫、以補之、一字不謬。其強識率

此類也。

造ルイタ

率オホ
ムカ

何がハ

ハ

「何が」どうする、どんなである、なんである」の場合の「何が」に當る語には多くの場合、ハの送假名を附ける。

使他人失時、其罪頗大。

行遠傳後、莫如書簡。

言不忠信、下等之人也。行不篤敬、下等之人也。

力行近乎仁、好問近乎智、知恥近乎勇。

國民各自慎其行爲、重其品格、即所以高國民之品格也。

カマツ

蒞

曾子曰、居處不_レ莊、非孝也。事君不_レ忠、非孝也。蒞_レ官不_レ敬、非孝也。朋友不_レ信、非孝也。戰陣無_レ勇、非孝也。

終

文部省檢定

昭和五年七月十五日 中學漢文教科用

昭和五年四月十日 印刷
昭和五年四月十三日 發行
昭和五年七月七日 訂正再版印刷
昭和五年七月十日 訂正再版發行



著者 清川 初一

發行者兼印刷者 鈴木 政雄

發行者 鈴木 常松

發行所

東京市神田區神保町一丁目二五ノ一
振替口座 (東京二六四四番)
大阪市東區博勞町五丁目五十六番地
振替口座 (大阪四七一番)

東京修文館
大阪修文館

漢文階梯

定價

金五拾七錢

特

作

圖



圖

圖

殊

殊

第...

...